燃料油脂新聞

発行所
株式会社 燃料油脂新聞社
〒103-0026
東京都中央区日本橋兜町8-8
電話　編集局東京03(6667)1031
販売局東京03(6667)1042
支局　札幌・仙台・関東・信越・東京・静岡・名古屋・金沢・大阪・広島・四国・福岡
www.nenryo.co.jp
©燃料油脂新聞社2019

きょうの紙面
2 総合版
3 週間マーケット情報版
4 近畿版
5 東海・北陸版
6 TBA版

社説　異業種参入は柔軟な発想で

（1）

平成30年度版「石油製品販売業経営実態調査報告書」（全国石油協会）によれば販売業者が進出・計画している有力な異業種事業の1位は自動車販売（中古車販売含む）2位が不動産賃貸・管理、3位自動車整備となった。4位がレンタカー、5位コインランドリー、6位LPG販売・食品・雑貨販売と続く。前年度調査とくらべるとコインランドリーが浮上した以外、変動はなくクルマ関連が上位を独占している。

（2）

元売統合やエネ高度化法施行で業界環境が変わって以来、ガソリン需要減対応の一環でクルマ販売、カーリース、カーシェアリングなどの強化が目立つようになった。SS事業との関連性が高いことや立地条件が良いなどに加えて燃料油販売よりも収益性が高いことも背景だ。EV（電気自動車）やFCV（燃料電池車）の台頭など将来予測される時代に対応するため中核的な事業構築を急ぎたいとの思いは強い。

（3）

投資コストが膨らむコンビニ店やファストフード店の複合業態化も本格化しつつあるが元売販社や大手特約店に限定される。「ヒト・モノ・カネ」に制約される一般特約店はSS事業との親和性を生かしたクルマ関連に集中するほうがリスクは減る。目指すべき方向は見えてきたが、問題はどう成功に導くか、である。洗車やオイル交換など従来型の商品ではないため画一的ではない柔軟な発想が求められよう。

新たな石油産業像、提示へ

重点4分野　石油　LNG　脱炭素化　鉱物資源

エネ庁総合エネ調分科会で議論

経済産業省資源エネルギー庁は7日、総合資源エネルギー調査会資源・燃料分科会（分科会長・白石隆熊本県立大学理事長）の第26回会合を開催し、資源・燃料政策の課題と方向性を提示した。今後重点を置くのは石油、LNG、脱炭素化、鉱物資源の4分野。石油については、再編で元売会社が4グループ体制に落ち着いたことから、新しい石油産業像を描く検討に着手する。加速する国内需要の減少下で製品供給網を維持するため、再投資環境の構築に向けた議論を展開する方針だ。

エネルギー安全保障の確保は資源・燃料政策の柱。米国の資源輸出国化や中国の経済拡大と米中関係の変質、不安定な中東情勢など変化する地政学リスクとどう向き合うかが今後の政策展開を考える際の重要点になる。

他方、人口減少や高齢化により中長期的に縮小する国内市場で、頻発する災害に備えるとともに、いかに競争力を強化し生産性を向上させるかも課題だ。加えて温暖化防止対策の一環として技術革新志向の脱炭素化戦略を立案する必要もある。

エネ庁はこうした視点で、6月に長野県で開かれるG20エネルギー・環境大臣会合に向け検討を進める。石油に関しては、大規模な再編を終えた元売会社が次の段階に踏み出す環境変化をとらえ、探鉱開発の上流、精製・流通の中・下流各分野を一体的にみた石油産業全体としての新しい姿を描く方向だ。

石油メジャーは原油価格の低迷時にコスト削減や競争力強化につながるデジタル技術の投資・人材確保を加速した。エネ庁は海外勢の動きを踏まえ、日本企業の国際競争力強化にはAI（人工知能）などの技術を活用した資源開発技術の高度化が必要と指摘。知的基盤の整備や外部知見の取り込みを行い、企業の権益獲得などに活用する方策を示した。

国際市場の活用

他方、国内市場ではエネルギー供給構造高度化法の2期にわたる告示により、製油所の精製能力は2017年度で352万㌔/㌫と2009年度比131万㌔/㌫減少。147万㌔/㌫によんだ需給ギャップは51万㌔/㌫まで縮小している。

だが石油製品の国内需要は2030年度に250万㌔/㌫程度と、2015年度比約20%減る見込み。内需減少の一方、アジア需要の拡大を背景にした中国・韓国の供給能力拡大や中東・欧州からの供給増加により、石油製品の国際市場での取引は活発化するとして、国際市場の活用を論点にあげた。

気候変動問題に関しては、グローバル企業の対策に関する国際的な情報開示・評価の動きが拡大し、国内企業も対応を求められていると指摘。石油メジャーでも再生可能エネルギーや脱炭素化技術に投資を行う流れとして、日本では2月に打ち出した「カーボンリサイクル」のための技術の研究開発を推進する考えを示した。

インフラ維持も課題

災害時や過疎化・人手不足など社会構造の変化に対応した燃料供給インフラの維持も重要な課題。あらゆる状況変化のなかでも持続可能な燃料供給体制の構築を目指す方針を明示。災害に備えた供給強靱化策では全国8000カ所以上の「住民拠点SS」整備、病院など重要施設での燃料備蓄推進、SSの営業・在庫情報の収集・発信システムの整備などをあげている。

過疎化や人手不足対応では、移動式給油やAI・画像認識技術を活用したセルフSS監視システムなど、保安規制の見直しを見据えた新たなビジネスモデルの検討に取り組んでいることを説明した。

自己株式2136万株　JXTGHD取得

JXTGホールディングスは、2月8日開催の取締役会で決議した自己株式（普通株式）取得に関する途中経過を明らかにした。2月12～28日に取得した株式総数は2136万3000株。取得価額の総額は115億8439万1070円。

週決め仕切り改定

コスモ　全油種横ばい

系列特約店によるとコスモ石油マーケティングは8～14日出荷分に適用するコスモ指標価格をガソリン、灯油、軽油、A重油の4油種とも前週水準に据え置く＝別表参照。

原油価格の上昇がいったん弱まり、4油種とも2月8日以来、4週ぶりに上げ止まる。今週の大手元売の改定は、いずれも全油種据え置きで出そろった。

コスモ先行指標改定幅
（単位：円/ℓ）

2月第3週（15～21日）	ガソリン	1.0
	軽油	1.0
	灯油	1.0
	一般A重油	1.0
	LSA重油	
2月第4週（22～28日）	ガソリン	2.0
	軽油	2.0
	灯油	2.0
	一般A重油	2.0
	LSA重油	
3月第1週（1～7日）	ガソリン	1.0
	軽油	1.0
	灯油	1.0
	一般A重油	1.0
	LSA重油	
3月第2週（8～14日）	ガソリン	0.0
	軽油	0.0
	灯油	0.0
	一般A重油	0.0
	LSA重油	

「適正利幅　今の水準でない」

公平公正な競争環境不可欠

全石連森会長会見

全石連の森洋会長は6日、理事会後に専門紙誌と会見し、足元のSSの収益環境について、老朽設備の更新や従業員の確保・待遇改善などに対応するためには「現在のマージン水準は道半ば」との認識を示し、販売業者ごとの経営事情に照らした適正マージン確保の必要性を強調した。

原油相場は1月以降騰勢を強め元売の仕切価格は値上がりが続き販売業者は小売価格への転嫁に苦慮した。

森会長は2017年4月のJXTGエネルギー誕生以降、需給適正化が図られ、収益環境は改善しているとしながらも「今年に入ってからはかなり厳しい」との見方を示した。

「設備の老朽化や人手不足下での人件費高騰、福利厚生の充実を考えれば、現状に甘んじるわけにはいかない」と強調。「適正マージンは今の水準ではないだろう」と述べ、4月に発足する「出光興産と昭和シェル石油との新会社を起爆剤に（市場環境が）良い方向に向かうことを期待している」と語った。

森会長は会長就任以来、中小・小規模事業者の視点による活動を基本に置く。国内需要の減少下でSSネットワークの維持強化に取り組んでいるが、大手流通業者が広範囲に地域市場を駆逐している問題には「真っ向から戦っていく」考えを表明。環境変化に応じた不当廉売ガイドラインの改定を公正取引委員会に強く働きかけるなどの取り組みで「公平公正な競争をしながら弱者でも十分にやっていける市場をつくらなければならない」と意欲を示した。

「働き方改革」により、SS業界も4月から年5日の有給休暇取得が義務づけられる。来年4月からは時間外労働の上限規制などにも対応を迫られる。

森会長は収益源の車検や洗車にも影響が出るとの認識を示し「時間ごとの収益に関するデータをチェックして営業時間を短縮したり、休業制をとるなどで生産性を向上させるとともに、従業員の待遇を改善していかなければならない」と指摘。「そのためにもマージンを見直す必要がある」と結論づけた。

組織としても中小小規模事業者への支援を行っていく考えを表明。あわせて「AI（人工知能）や外国人労働者の活用も視野に入れながら取り組んでいく」と述べた。

重大事故過去最少813件

2018年経産省まとめ

電気製品525件、石油機器64件

経済産業省は4日、産業構造審議会保安・消費生活用品安全分科会製品安全小委員会（委員長・三上喜貴長岡技術科学大学理事・副学長）の第7回会合で、2018年の石油機器や電気製品の火災などが発生した重大製品事故件数が前年にくらべて60件減の813件と、過去最少だったとする調査結果を報告した。

そのうち石油機器が64件と最も少なかった。ガス機器は93件。最も多かったのは電気製品で525件だった。同省は、機器全体の事故は減少しているものの、石油、ガス機器の高齢者の事故が増加傾向にあると分析。高齢者の機器の長期使用を防ぐ対策や、高齢者の行動特性を踏まえた製品開発設計の必要性を指摘した。

石油機器の内訳をみると、石油ストーブは23件に14件減ったが、石油ファンヒーターは6件増の18件に増加した。電気ストーブは16件減の26件。電気製品で最も多かったのはエアコンで4件減の49件だった。

SOx規制の動向　JPECが報告会開く

SO×規制も取り上げた調査報告会

世界の石油精製技術や規制の動向を調査分析した結果を報告する石油エネルギー技術センター（JPEC）の「平成30年度調査事業報告会」が6日都内で開かれ、元売や石油関係企業の技術者など110人が参加し新たな技術動向を共有した。

資源エネルギー庁から委託された調査・分析事業の一環。JPEC担当者が、製油所の国際競争力強力に向け、石化製品の原料製造に関わる技術開発や、来年1月から開始するIMO（国際海事機関）の船舶燃料油硫黄分濃度規制（SOx規制）強化に向けた動きなどを報告した。

製油所関係ではJPEC調査情報部の斉藤吉則主席研究員が、原油から石化製品を直接製造する中国のパラキシレン製造プロジェクトの事例を紹介した。

横溝晃主任研究員は、IMOで現在議論されているSOx規制の国際ルールや、不正防止対策の審議状況を説明した。

現在審議中の産業界向け手引きには、適合油の動粘度、引火点、混合安定性など燃料品質について細かい内容が盛り込まれる予定と指摘。また来年3月から燃焼目的での非適合油の保持禁止が施行されることも説明した。

エネ庁小売電気事業者登録576件

資源エネルギー庁は、電気事業法に基づき2月26日付で小売電気事業に参入する8社の登録を行った。1月16日付でジェイコム東京がジェイコム港新宿を吸収合併した旨の届出を受理し、ジェイコム港新宿の登録を抹消したため、累計登録件数は576件になった。登録特定送配電事業者は24件で変わっていない。

新規登録8社は、エナジー（東京都千代田区）ダイレクトパワー（東京都新宿区）サンコーテレコム（東京都港区）ネクストワンインターナショナル（千葉県千葉市）AOIエネルギーソリューション（福井県福井市）五島市民電力（長崎県五島市）電力保全サービス（愛知県名古屋市）リストプロパティーズ（神奈川県横浜市）。

部長級人事異動　シナネンHD

シナネンホールディングスは6日、4月1日付で次の人事異動を発令した。

▽上席執行役員経営企画部長（執行役員経営企画部長）間所健司▽人事部長（人事部長兼総務法務部長）村尾睦明▽総務法務部長（ミライフ東日本管理統括部人事総務部長兼人事総務チーム長兼不動産管理チーム長兼内部統制室長）菅沼吉憲。

今日の市況

1月マージン灯・軽油20円

◎…資源エネルギー庁によれば石油製品の1月卸価格（全国平均＝引取税・消費税抜き）はガソリン㌔114円20銭、前月比2円下落した。原油安から原油高へ移行、1月第3週、4週の値上げも反映は限定的。経産局別でみると北海道2円20銭安114円20銭、東北1円80銭安114円50銭、関東1円90銭安114円40銭、好値地域が多い九州は1円80銭安115円70銭。一方、都道府県別では最高値が長崎県119円70銭、最安値は岡山県112円80銭、格差は6円90銭。1月最終週のガソリン市況は142円90銭、概算マージン19円強と推定されるが競争の激しい地域の実勢市況ベースでは10円を下回る。

◎…軽油は2円値下がりし63円20銭。都道府県別の最高値は長崎県67円80銭、最安値が大阪府61円60銭で格差は6円20銭。1月最終週の軽油市況は124円、マージンは21円強。灯油は1円80銭下落し62円90銭。1月最終週の灯油市況（店頭）は1596円（㌔88円70銭）でマージンは20円程度と推定される。

大切な人を守るため、タイヤの空気圧チェックをよびかけています。
空気入りタイヤを実用化したダンロップの責任だから。
0120-39-2788　https://tyre.dunlop.co.jp/　ダンロップ　検索
DUNLOP

北海道業者

元売の姿勢変化指摘

「系列外仕入れ活用容認」

【札幌】元売の再編が最終段階に入り、特約店では元売の動向を注視しているが、特約店幹部は「元売の担当者の姿勢はドライになった。安い玉があれば活用してよい」と話し、系列に対するこだわりは変わってきているとして、柔軟な経営姿勢への転換を強調している。

冬季配送不安示す声増加

道内では元売の施策のなかで配送問題への不安を訴える特約店幹部の声は大きい。顧客との関係では安定供給は大きな決め手になるとしている。外資系特約店幹部は「在庫がなくて顧客を失ったケースがある。ニーズに即応できなければ商売はできない」と話し、供給の安定の必要性を指摘する。道内では元売の効率化戦略のなかで、内陸部の配送基地は相次いで閉鎖され、配送用ローリーは増やされているが、配送距離は長距離化しており冬季の配送不安を指摘する声は増加している。そのため郡部市場の特約店筋では、安定供給の維持のために自社の配送センターの増強を図るケースもある。

「安定供給を確保するためには緊急時の安定供給対策も必要で、系列外のルート確保も必要だ」と道北の特約店幹部は話し、系列外の仕入れルートの必要性を強調する。特約店幹部は「元売担当者は安いルートがあったら利用してくださいと話す。系列に対する意識も低い」と話し、元売担当者の意識の変化を指摘する。

元売の再編で3グループに集約されることが確実視されるなか、元売の系列に対する意識も変化している。特約店ではこうした元売再編にともなう「系列意識」の変化にも対応する経営が求められているーという声が出ている。

乙四有資格者が流出

ローリー運転手として引き抜き

東北地区業者

【盛岡】ローリー運転手の人手不足に悩む東北地区の運送業者が乙四の資格を持つSSスタッフを引き抜く事態に、複数の中堅特約店が頭を痛めている。しかも引き抜かれたSSスタッフはマネージャーに準じる主任クラスが多く「引き抜かれたSSスタッフは油外商品販売の実力者の一人、大きな痛手」と話す。SSスタッフの引き抜きは数年前から表面化している。慢性的な人手不足から運送業者側の職場環境が改善され「待遇がSSよりも格段に上になった」こともSSスタッフの心を動かしているとみられる。

数店舗（SS）を運営する特約店は、最近2年間で4人のSSスタッフが引き抜かれ、全員がローリー運転手として運送業者に転職した。同特約店は「乙四など危険物の有資格者ばかり、なぜなのだろう」と知り合いの運送業者に探りを入れたところ、あることが判明した。運送業者の話では、危険物の資格を取らせるほうが大型免許を取らせるより難しい。SSスタッフは乙四を持ち、石油製品を運ぶローリー運転手としてすぐに使える。大型免許がないSSスタッフは免許取得まで運送業者が面倒をみる。「そのほうが手っ取り早い」という。

中堅特約店では荷卸し時に立ち会いするSSスタッフにローリー運転手が「うちに来ないか。いまの給料より数万円プラスした給与で雇える」とささやき、完全週休2日制で8時間労働という勤務条件を伝えた。このSSスタッフも転職したという。

運送業界は慢性的な人手不足から職場環境が大幅に見直され、処遇も改善された。一方でSS業者側は低空飛行を続ける盛岡市場の影響を受け、利幅がリッ10円にも満たない苦しい経営環境が続いている。しかも人手不足から労働環境の改善にはほど遠く「給料が高くなり、完全週休2日制で休みが確実なら転職を考えるSSスタッフの気持ちは理解できる」としながらも「昨日まで働いていたSSスタッフが突然辞表を出し、1カ月後にローリーで石油製品を届けてくる。なんとも言いようのない気持ちになる」と本音を漏らす。

岩手県内でSSスタッフが運送業者側に引き抜かれた事例は複数におよび「最低でも10人以上が転職したのではないか」と関係者は推計し「乙四の資格取得が年々難しくなり、有資格者のSSスタッフは即戦力化する。しかもSS勤務時代より給料が増え、労働条件も良ければ転職を考えるのも当然だろうが」と複雑な表情を隠し切れない。

大分県業者

価値あるSS追求へ

減販直面で柔軟な対応

【大分】大分県市場では、あらためて価値あるSSづくりを追求する販売店主が増えている。数量の追求と決別し、地域のなかで存在価値を生む努力を続けている。

背景には燃料ボリューム至上主義の限界がある。構造上の減販に直面している実態があるからだ。また最近は特約店側も販売店の地域との共生力や貢献力、店主の考え方などを考慮した独自の支援体制を取っており、これまでより柔軟な対応を行うようになった変化も大きな要因となっている。

価値づくりとしては県内で多いのは、コミュニティーSSの体現だ。井戸端会議のできるサービスルームを有しており、顧客との距離が近いため価格で流動する顧客は少ない。毎月のボリュームや油外収益が安定していることから、経営の見通しが立てやすいメリットもある。

小回りの利く運営に徹し、地域社会に必要とされるSSを目指す販売店も多い。軽油の小口パトロール配送、御用聞きなどだ。

特定分野への特化型もある。高級洗車や車販事業だけで成り立つ経営を実践している販売店は増加している。

いずれも独自の店づくりが特色という点で共通している。あらためて自店の武器と目指す像を見つめ直し、存在価値を高め続けようと奮闘を続けている。

滋賀県業者

働きがいある職場づくり

クチコミで後輩が入社

【大津】SSは即戦力を求めて中途採用での求人がメインだが、滋賀県内では若手が入ることによる組織活性化のため、高校や大学の新卒者の求人を継続している業者が少なくない。だがパートやアルバイトさえ応募がない状況のなかで、他社との人材獲得競争もあって、新卒採用は年々厳しくなっている状況だ。

同県内販売業者は「県内のあちこちの高校を回ってお願いしているが、なかなか採用できない。昔とくらべてセルフ化でずいぶんとSSでの仕事は楽になったが、まだまだ親御さんのほうにもSSは3K職場という偏見があるのかもしれない。業界のイメージアップも必要ではないか」と語る。

一方、別の業者は「採用が難しいといわれる高校新卒者だが、毎年コンスタントに入社がある。当社は人づくりに力を入れており、また働き甲斐のある職場を目指している。そういうことが先に入社した者などからのクチコミで、同じ高校の後輩や就職担当の教師に伝わり、当社の社風を魅力と感じて応募してくれるのだと思う」と話している。

さくら新電力本格的に稼働

1000件のスイッチング計画

【弘前市＝青森】SS運営やLPガスの販売を行う弘善商会（JXTG系）などが設立した「さくら新電力」（坂野泉社長）が動き出した。今年の高圧や低圧を含めたスイッチング（供給者変更）は1000件を目指し、3年後には3000件を突破する計画だ。坂野社長は「地域に還元できる電力事業を展開したい」と意欲を燃やす。

坂野社長

「さくら新電力」は2017年4月に弘善商会が54・84%、地元企業のひろさきアップルパワーと太陽地所がそれぞれ20・16%、みちのく銀行が4・84%を出資し、資本金1240万円で設立し、同年9月に経済産業省での小売り電気事業者に登録した。地元企業の出資協力により地域住民へのサービス向上が期待される。スイッチングのエリアは新潟県を含む東北7県。代表取締役には弘善商会の坂野社長が就任した。社員は経営が安定するまで弘善商会の従業員が委託社員として、スイッチングなど新規獲得に動いている。

弘善商会ではソーラーパネルの発電所を青森県内で5カ所完備しているが、新たに今春に2カ所を増設して再生可能エネルギーの売電を強化する計画。現在は日本卸電力取引所（JEPX）から調達している。

電力や都市ガスの小売りが自由化されて、エネルギー間の競争が激化している。石油販売業者がガスや電気などとのセット販売を顧客に提案し新規客の獲得がし烈になっているなか、弘善商会でも「さくら新電力」とタックを組んで顧客に満足されるセット料金プランを提供し、顧客との信頼関係を強める計画だ。

坂野社長は「幅広い顧客ニーズに対応するため、収益の一部を地域のスポーツや文化の振興に役立つシステムプランを考えている。一般家庭向けで年間4%程度安くなる。3年後には3000件以上のスイッチングを目標にしている」と話す。

ガソリン1円から1円20銭値上がり

愛知県内業転価格

【名古屋】愛知県内の石油販売業者によると、県内のガソリン業転価格は6日現在、前週（2月27日）とくらべてリッ1円から1円20銭値上がりした。軽油は40銭から1円70銭値上がり。灯油は横ばいから1円20銭値上がりした。

結果、県内の業転価格（消費税抜き、小口SS届け）は6日現在、ガソリンで安値113円90銭、中値114円90銭、高値116円。軽油は安値64円、中値64円60銭、高値65円10銭。灯油は安値63円90銭、中値64円70銭、高値65円50銭。

今後の業転価格について、SS関係者は「卸業者からすでに来ている通知をみるとバラつきはあるが、7日以降の大手仕切りが据え置きになったことなどから、若干軟化しそうだ」と話す。

ガソリン平均1円40銭値上がり

北陸業転市況

【金沢】北陸3県の2月28日～3月6日出荷分の業転価格（SS届け・消費税別）はガソリンが前週比リッ80銭から2円90銭値上がりし、116円50銭～121円。平均価格（日数平均）は前週比1円40銭値上がりし、118円50銭。

灯油は90銭から1円20銭値上がりし、65円50銭～67円70銭。平均は1円10銭値上がりし、66円80銭。

軽油（引取税込み）は10銭から1円40銭値上がりし、97～101円。平均は1円値上がりし、99円。

A重油は1円値上がりし、66円70銭～67円。

関西最大級バイクイベント開催迫る

インテックス大阪で15日から

【大阪】「第35回大阪モーターサイクルショー2019」が15～17日にインテックス大阪（大阪市住之江区）で開催される。主催は日本二輪車普及安全協会近畿ブロック。近畿経済産業局や近畿運輸局、大阪府、大阪市、全国軽自動車協会連合会、日本自動車工業会、大阪府交通安全協会が後援し、二輪車メーカー各社や関連団体などが協賛・協力している。

同イベントは関西最大級のバイクイベントで、入場者数も年々増加。昨年は7万人を超えていた（7万664人。前年比4420人増）。出展社数は153社・団体の予定。

不正軽油密造で再逮捕

兵庫県警が明石市の石油販売役員を

【神戸】兵庫県警生活環境課は6日、前月に地方税法違反で逮捕し勾留中の明石市在住の石油販売会社役員、北川徳幸容疑者（50歳）を再逮捕、神戸市西区の会社役員、岡野隆容疑者（68歳）を同法違反で逮捕した。兵庫県は犯則事実が固まり次第、神戸地検に告発する。

嫌疑者らは共謀のうえ、兵庫県知事の承認を受けず、平成27年3月3日から29年11月21日までの間、963回にわたり同県加古川市志方町の敷地内で、軽油と灯油を混和した炭化水素油約1万940㌔を製造したもの。

同嫌疑者は大阪府知事などの承認を受けず、30年2月9日から同年3月15日までの間、8回にわたり大阪府東大阪市内において、不正軽油約117・5㌔を密造した嫌疑で前月14日に同法違反で逮捕されていた。

西部石油

人事異動

西部石油（本社東京都千代田区）は4月1日付で、次の人事異動を行う。

▽理事山口製油所長付（理事山口製油所製造部長）木橋一郎▽環境安全室長（山口製油所工務部長）野村敏之▽技術管理部担当部長（環境安全室長兼技術管理部担当部長）山縣篤志▽山口製油所製造部長（技術管理部技術課長兼総務部人材開発担当課長）西村伸尚▽同工務部長兼工務部購買課長（山口製油所工務部工務課長）安藤伸一。

▽経営管理部企画課長（技術管理部技術課）瀬川悠介▽同部経理課長（経営管理部企画課長兼西部曳船出向）宇野洋平▽業務部業務課長（総務部人事課長兼人材開発課長）瀬川研司▽総務部人事課長兼人材開発課長（経営管理部経理課長）湊真太郎▽同部付休職西部曳船出向（業務部業務課長）田村正和▽技術管理部技術課長兼総務部人材開発担当課長（技術管理部生産技術課長）本坊大介▽同部生産技術課長（同部品質保証課長兼品質保証係長）藤本雅弘▽同部管理課長（同部管理課）廣中信一郎▽同部品質保証課長（同部管理課長）松脇和雄。

▽山口製油所環境安全部警備保安課長兼警備保安係長（山口製油所環境安全部警備保安課警備保安係長）植木昭三▽同製造部製油一課長（同製造部製油二課製油一係長）白石敏郎▽同製造部製油二課長（同製造部製油二課製油二係長）古川治夫▽同製造部動力課長（同製造部動力課動力係長）中松豊▽同工務部工務課長（同工務部購買課長）石川聖隆。

原油処理量2週ぶり増

ガソリン、中間留分出荷低調

石連週報

石油連盟は2月24日から3月2日までの「原油・石油製品供給統計週報」（石連週報）をまとめた。週間原油処理量は、前週から6万5033㌔（1・8%）増加し、359万6055㌔となった。2週ぶりに前週を超えたものの、前年同期は4週連続で下回り、1・9%減少した。

主要油種製品在庫量は、ガソリンが輸出増加を背景に減少した。前週からは2・6%減、前年同期比では5・5%減となり、それぞれ2週続けて下回った。一方で国内出荷には弱さがみられ、週間出荷量は推定で87・6万㌔と、前週から9・7万㌔（10・0%）減少した。

中間留分は出荷量減少と生産量増加を受けて、在庫を積み上げた。灯油は前週比3・7%増で8週ぶりの増加。軽油は2・0%増、A重油は0・3%増と、いずれも2週ぶりに増加した。

前年同期比では、灯油が24・1%増、A重油が18・4%増で、それぞれ前年超えが19週連続に伸びた。軽油は19・1%増と、5週続けて前年を上回った。

◎週間製油所稼働状況

▽原油処理量359万6055㌔（前週比6万5033㌔増）▽製油所稼働率（対実稼働能力）91・8%（1・3ポイント減）▽同（対設計能力）91・8%（1・6ポイント増）

◎石油製品週末在庫量

▽ガソリン158万8377㌔（前週比4万2404㌔減）▽灯油159万5872㌔（5万7035㌔増）▽軽油150万9612㌔（2万9353㌔増）▽A重油78万9696㌔（2344㌔増）▽C重油195万9319㌔（9644㌔増）▽燃料油計973万2736㌔（4万8088㌔減）

◎原油・半製品週末在庫量

▽原油1233万2534㌔（前週比28万2216㌔増）▽粗ガソリン250万8739㌔（6万8393㌔減）▽粗灯油50万6393㌔（5万5114㌔減）▽粗軽油78万4511㌔（7万7959㌔減）▽粗A重油59万5962㌔（1万6773㌔増）▽計（装置原料含む）696万32㌔（23万9302㌔減）

◎石油製品生産量

▽ガソリン99万212㌔（前週比1万9035㌔増）▽灯油38万5335㌔（7万9599㌔増）▽軽油92万4988㌔（12万4㌔増）▽A重油28万6270㌔（5915㌔増）▽C重油30万1033㌔（1万1347㌔減）▽燃料油計355万4695㌔（10万7737㌔増）

◎石油製品輸入量

▽C重油3万8781㌔（前週比2万3817㌔増）

◎石油製品輸出量

▽ガソリン15万6555㌔（前週比5万1734㌔増）▽ジェット燃料油32万6211㌔（11万3486㌔増）▽灯油なし（増減なし）▽軽油23万1549㌔（1万4279㌔減）▽A重油2万7811㌔（2万4642㌔増）▽C重油13万3353㌔（1万8045㌔増）▽燃料油計87万5479㌔（19万3628㌔増）。

科学的根拠ない

スクラバー排水禁止

SOx規制で日本が異議

2020年1月から始まる船舶燃料油の硫黄分濃度規制（SOx規制）に向けた国際ルールを議論するIMO（国際海事機関）の汚染防止・対応小委員会が2月末にロンドンで開催され、日本の国土交通省は、高硫黄重油を使うために船舶がSOxスクラバー（排ガス洗浄装置）の洗浄水を海中に排水するスクラバー排水を禁止しないよう訴えた。

また安価な基準不適合燃料油の不正使用対策として、日本が提案した燃料供給者への監督措置や、不正情報の共有などを盛り込んだSOx規制の統一的実施ガイドライン案をとりまとめた。ガイドラインは、5月のIMO第74回海洋環境保護委員会で正式に採択する予定だ。

現在、スクラバー排水禁止は欧州や中国など一部の地域で、IMOとは別に独自の地域規制のかたちで行われている。2020年1月からはシンガポール港湾でも実施される。

会合で日本は、シミュレーションによる排ガス洗浄装置の排水の環境影響を検証した結果を基に「短期的に長期的にも排水が海生生物や水質に影響を与える可能性は著しく低い」と指摘。科学的根拠のない地域規制導入をけん制した。日本の発表や調査結果に対しては、多くの国や業界団体が関心を示した。

一方、規制ガイドラインに日本側の提案が反映されたのは船舶燃料の供給者所在国に推奨される不正対策の部分だ。具体的には供給燃料の適正化に向け、燃料油の基準（硫黄分濃度0・5%以下）適合性を確認するための分析方法や、燃料油の品質を確保するために燃料供給者に対して監督官庁が行う対策。また不正が発覚した際の各国間で不正情報を共有する方法なども盛り込まれた。

プラッツドバイ原油・バージガソリン・灯油・軽油先物取引価格

2019年3月6日	プラッツドバイ原油					
	3月限	4月限	5月限	6月限	7月限	8月限
始値	46,120	45,930	45,710	45,460	45,140	44,850
高値	46,120	45,970	45,710	45,460	45,150	44,910
安値	45,840	45,600	45,370	45,090	44,780	44,510
終値	45,950	45,700	45,450	45,160	44,860	44,610
前日比	-10	-60	-90	-110	-90	-40
出来高	68	293	119	329	3,237	4,073
2019年3月6日	バージガソリン					
	4月限	5月限	6月限	7月限	8月限	9月限
始値	56,370	56,490	56,780	56,510	56,440	56,300
高値	56,450	56,550	56,830	56,680	56,440	56,300
安値	56,190	56,450	56,600	56,420	56,190	55,990
終値	56,450	56,520	56,700	56,500	56,260	56,110
前日比	160	90	10	-100	-70	10
出来高	35	22	34	64	157	347
2019年3月6日	バージ灯油					
	4月限	5月限	6月限	7月限	8月限	9月限
始値	61,900	61,900	61,870	61,450	61,160	61,060
高値	62,020	62,010	61,870	61,500	61,160	61,150
安値	61,820	61,850	61,650	61,230	60,810	60,720
終値	61,940	61,970	61,820	61,250	60,840	60,730
前日比	-20	-110	40	-50	-40	-70
出来高	9	17	12	14	104	101
2019年3月6日	バージ軽油					
	4月限	5月限	6月限	7月限	8月限	9月限
始値	-	-	-	-	-	-
高値	-	-	-	-	-	-
安値	-	-	-	-	-	-
終値	-	-	-	-	-	-
前日比	0	0	0	0	0	0
出来高	-	-	-	-	-	-

（注）価格の単位はガソリン・灯油ともにkℓ当たり円。ガソリンはガソリン税kℓ53,800円を除く。ガソリン・灯油は製油所（油槽所）渡しバージ価格。出来高の単位は枚。1枚は100kℓ。価格は「日中取引」分。

中京ローリーガソリン・灯油先物取引価格

2019年3月6日	中京石油市場ガソリン					
	4月限	5月限	6月限	7月限	8月限	9月限
始値	59,500	59,900	58,800	58,600	-	-
高値	59,500	59,900	58,800	58,600	-	-
安値	59,500	59,900	58,800	58,600	-	-
終値	59,500	59,900	58,800	58,600	-	-
前日比	500	300	500	310	0	0
出来高	1	1	1	1	-	-
2019年3月6日	中京石油市場灯油					
	4月限	5月限	6月限	7月限	8月限	9月限
始値	62,990	-	-	-	-	-
高値	62,990	-	-	-	-	-
安値	62,990	-	-	-	-	-
終値	62,990	-	-	-	-	-
前日比	3,990	0	0	0	0	0
出来高	5	-	-	-	-	-

（注）価格の単位はガソリン・灯油ともにkℓ当たり円。ガソリンはガソリン税kℓ53,800円を除く。いずれも名古屋市潮見ふ頭および飛鳥村での油槽所渡し価格。出来高の単位は枚。1枚は10kℓ。

ハイオク140円台一掃、灯油店頭5円高1609円

週間マーケット情報版

電話03(6667)1031
FAX03(6667)1033

灯油 配達1767円

店頭5円高、3県同値

全国SS店頭灯油平均価格（4日時点）は、18㍑1609円（㍑89円40銭）、配達は1767円（98円20銭）だった。店頭は5円、配達6円上昇した。

地域別では、店頭の最高値は沖縄県1853円（102円90銭）、最安値は宮城県1502円（83円40銭）、価格差は351円。配達の最高値は東京都2016円（112円）、最安値は青森県1584円（88円）、価格差は432円となった。店頭では1400円台が姿を消した。

気象庁は1日、今冬（2018年12～2019年2月）は東日本以西で冬の平均気温がかなり高くなったと発表。北・東・西日本でも降雪量がかなり少なかったという。また向こう1カ月は高くなると予想、需要を押し上げる気配はない。

軽油70銭上げ

徳島120円10銭、110円台一掃

全国軽油SS店頭平均価格（4日）は、前週から㍑70銭上昇し125円80銭だった。地域別でみると、最高値は長崎県で137円60銭となり、最安値は滋賀県と徳島県で120円10銭。最安値は120円を上回った。

本紙集計の全国セルフ店頭市況の中心値（参考価格＝2月25～27日）は114～118円となり、下値が1円上昇した。高速道路のセルフSS（34カ所）でも全国的に1～2円程度値上げが進んだ。平均価格は前週比90銭上昇し、133円となった。

レギュラー144円90銭

北海道3円30銭値上げ

全国SS店頭レギュラーガソリン（4日）の平均価格は、前週から㍑90銭上昇し144円90銭となった。ただ元売各社が2月28日以降の仕切価格を1円引き上げており、転嫁不足は拡大しつつある。

本紙集計の全国セルフ市況（2月25～27日）は134～138円。前週から上値・下値が2円上昇。JXTGエネルギーの基準価格をもとにした実売価格に近い価格は6円前後と変わらなかった。

ハイオク 埼玉150円台へ

90銭高

岡山80銭下げ

ハイオクガソリンの全国SS店頭平均価格（4日時点）は、前週比㍑90銭上昇し155円70銭だった。地域別では最高値が長崎県166円30銭、最安値が徳島県148円60銭。徳島県を除き全地域で150円台に乗った。

高速道路のセルフSS（34カ所）は、全国平均164円50銭となり、前週比60銭上昇した。エリア別でみると、東・中日本エリアで値上げが見られた。一方、西日本エリアの平均価格は161円10銭となり、前週とくらべて10銭の値上げにとどまった。

ハイオク

地域	2月4日	2月12日	2月18日	2月25日	3月4日	前週比
北海道局	151.5	151.0	151.2	153.1	156.6	3.5
青森	152.7	152.4	152.2	152.9	153.3	0.4
岩手	150.7	151.0	151.2	151.0	153.2	2.2
宮城	149.7	149.3	150.4	152.3	154.0	1.7
秋田	154.8	154.5	154.7	155.5	157.7	2.2
山形	156.4	156.5	156.9	158.5	159.5	1.0
福島	156.2	155.7	156.0	157.0	158.5	1.5
東北局	153.3	153.0	153.4	154.4	155.9	1.5
茨城	150.8	150.6	150.4	151.5	152.2	0.7
栃木	151.6	151.5	151.5	153.6	154.3	0.7
群馬	152.2	151.7	151.5	153.2	154.5	1.3
埼玉	148.2	148.2	148.3	149.5	150.4	0.9
千葉	149.6	149.3	149.7	150.5	151.2	0.7
東京	153.4	153.8	153.4	155.1	156.4	1.3
神奈川	151.0	150.0	150.6	151.3	153.4	2.1
新潟	151.2	151.2	151.7	152.6	153.8	1.2
長野	161.2	161.2	161.0	162.4	162.9	0.5
山梨	157.1	157.3	157.4	158.9	160.5	1.6
静岡	154.4	154.4	155.2	156.2	156.8	0.6
関東局	152.7	152.5	152.7	154.0	155.0	1.0
愛知	150.2	150.3	151.5	153.0	153.1	0.1
岐阜	154.1	154.1	154.0	155.2	156.2	1.0
三重	154.0	153.5	154.0	155.3	156.0	0.7
富山	151.8	151.7	152.5	153.9	154.7	0.8
石川	149.6	149.5	149.6	150.3	151.3	1.0
中部局	151.8	151.8	152.3	153.6	154.2	0.6
福井	153.9	154.2	154.6	156.4	156.7	0.3
滋賀	151.1	151.1	151.1	153.0	153.0	0.0
京都	156.7	156.3	156.5	156.7	157.1	0.4
奈良	152.0	151.5	151.5	153.0	153.9	0.9
大阪	151.2	150.9	150.7	152.5	153.1	0.6
兵庫	151.4	151.7	151.8	152.3	152.7	0.4
和歌山	150.9	150.9	150.2	151.5	152.1	0.6
近畿局	152.5	152.4	152.3	153.6	154.0	0.4
鳥取	151.3	152.3	152.5	153.8	155.1	1.3
島根	155.9	156.0	156.1	157.5	158.2	0.7
岡山	152.2	152.1	152.6	152.7	151.9	▲0.8
広島	151.8	151.8	151.4	152.3	154.0	1.7
山口	152.2	150.2	149.7	150.8	151.8	1.0
中国局	152.6	152.5	152.4	153.5	154.3	0.8
徳島	148.0	147.5	147.6	148.1	148.6	0.5
香川	156.0	156.1	155.8	155.8	155.4	▲0.4
愛媛	156.2	156.0	156.4	157.2	157.7	0.5
高知	162.3	162.4	159.3	159.3	159.3	0.0
四国局	155.5	155.1	154.7	155.1	155.1	0.0
福岡	156.9	156.3	156.1	156.1	156.3	0.2
佐賀	160.2	159.7	159.8	159.6	159.9	0.3
長崎	165.1	165.1	165.2	165.4	166.3	0.9
熊本	156.7	156.4	156.4	157.3	157.8	0.5
大分	164.5	164.4	164.1	164.1	164.2	0.1
宮崎	158.9	158.8	159.0	158.8	159.0	0.2
鹿児島	162.1	161.4	162.0	162.6	163.0	0.4
九州局	160.8	160.4	160.6	160.7	161.1	0.4
沖縄局	156.8	156.4	156.6	157.2	157.9	0.7
九州沖縄局	160.4	160.0	160.1	160.3	160.7	0.4
全国	153.9	153.7	153.8	154.8	155.7	0.9

レギュラー

地域	2月4日	2月12日	2月18日	2月25日	3月4日	前週比
北海道局	141.6	141.1	141.3	143.1	146.4	3.3
青森	141.7	141.4	141.2	141.9	142.3	0.4
岩手	139.8	140.1	140.3	140.0	142.3	2.3
宮城	138.8	138.5	139.6	141.5	143.2	1.7
秋田	143.8	143.5	143.7	144.5	146.8	2.3
山形	145.2	145.2	145.6	147.2	148.3	1.1
福島	145.0	144.5	144.9	145.7	147.3	1.6
東北局	142.3	142.1	142.4	143.4	144.9	1.5
茨城	139.8	139.5	139.4	140.5	141.2	0.7
栃木	140.5	140.4	140.4	142.6	143.3	0.7
群馬	141.2	140.7	140.5	142.1	143.3	1.2
埼玉	137.3	137.3	137.4	138.6	139.6	1.0
千葉	138.8	138.5	138.9	139.7	140.4	0.7
東京	142.7	143.1	142.7	144.3	145.6	1.3
神奈川	140.0	139.0	139.6	140.4	142.4	2.0
新潟	140.0	140.1	140.5	141.5	142.7	1.2
長野	150.0	149.8	149.7	151.0	151.6	0.6
山梨	145.8	146.0	146.2	147.6	149.1	1.5
静岡	143.1	143.1	143.9	144.9	145.7	0.8
関東局	141.7	141.5	141.6	142.9	144.0	1.1
愛知	139.3	139.4	140.5	142.0	142.2	0.2
岐阜	143.0	143.0	142.9	144.0	145.0	1.0
三重	142.6	142.1	142.6	143.8	144.5	0.7
富山	140.9	140.8	141.6	142.9	143.8	0.9
石川	138.9	138.9	138.9	139.7	140.7	1.0
中部局	140.8	140.8	141.3	142.5	143.2	0.7
福井	142.6	142.9	143.2	145.0	145.3	0.3
滋賀	140.7	140.7	140.7	142.6	142.6	0.0
京都	145.8	145.4	145.6	145.8	146.2	0.4
奈良	141.2	140.8	140.8	142.2	143.2	1.0
大阪	140.7	140.2	140.1	141.9	142.4	0.5
兵庫	140.6	140.9	141.1	141.5	142.0	0.5
和歌山	140.8	140.8	140.1	141.5	142.0	0.5
近畿局	141.8	141.7	141.6	142.9	143.3	0.4
鳥取	140.3	141.3	141.5	142.8	144.0	1.2
島根	144.7	144.9	145.0	146.5	147.2	0.7
岡山	141.6	141.5	141.8	141.9	141.1	▲0.8
広島	140.0	140.0	139.7	140.7	142.6	1.9
山口	141.2	139.2	138.7	139.9	140.9	1.0
中国局	141.5	141.4	141.3	142.4	143.3	0.9
徳島	137.4	136.8	136.9	137.6	138.0	0.4
香川	145.2	145.3	145.1	145.1	144.7	▲0.4
愛媛	145.2	145.1	145.4	146.2	146.7	0.5
高知	152.1	152.2	149.2	149.2	149.2	0.0
四国局	144.8	144.5	144.0	144.5	144.5	0.0
福岡	145.5	144.7	144.8	144.8	144.9	0.1
佐賀	149.4	148.8	148.9	148.7	149.0	0.3
長崎	155.0	155.0	155.0	155.2	156.1	0.9
熊本	146.4	146.0	145.8	146.7	147.2	0.5
大分	153.6	153.5	153.3	153.2	153.3	0.1
宮崎	148.3	148.1	148.3	148.1	148.3	0.2
鹿児島	152.5	151.9	152.5	153.1	153.6	0.5
九州局	150.3	149.8	150.0	150.1	150.5	0.4
沖縄局	148.3	148.0	148.1	148.7	149.4	0.7
九州沖縄局	150.1	149.6	149.8	150.0	150.4	0.4
全国	143.1	142.9	143.0	144.0	144.9	0.9

軽油

地域	2月4日	2月12日	2月18日	2月25日	3月4日	前週比
北海道局	125.2	124.8	124.7	126.5	129.7	3.2
青森	123.2	123.0	122.6	123.4	123.7	0.3
岩手	120.6	120.9	121.0	120.6	122.6	2.0
宮城	119.6	119.5	120.4	121.9	123.0	1.1
秋田	126.9	127.2	126.9	127.6	130.2	2.6
山形	128.3	128.3	128.8	130.4	131.1	0.7
福島	125.3	124.9	125.1	126.0	127.5	1.5
東北局	123.8	123.7	124.0	124.8	126.1	1.3
茨城	119.5	119.3	119.3	120.2	120.8	0.6
栃木	121.6	121.7	121.6	123.3	124.0	0.7
群馬	123.5	123.2	123.2	124.1	124.9	0.8
埼玉	118.5	118.6	118.8	119.6	120.4	0.8
千葉	120.0	119.9	120.1	120.9	121.5	0.6
東京	124.1	124.4	124.0	125.9	126.7	0.8
神奈川	120.4	119.6	119.9	120.3	121.9	1.6
新潟	124.3	124.5	125.0	125.7	126.8	1.1
長野	129.1	129.0	128.9	130.4	130.8	0.4
山梨	123.9	124.1	124.1	125.5	126.8	1.3
静岡	124.1	124.2	124.7	125.7	126.1	0.4
関東局	122.6	122.5	122.6	123.7	124.5	0.8
愛知	121.2	121.2	122.4	123.8	123.7	▲0.1
岐阜	122.7	122.7	122.7	123.5	124.6	1.1
三重	125.5	125.0	125.5	126.6	127.1	0.5
富山	123.4	123.3	124.1	125.4	125.9	0.5
石川	122.8	122.6	122.6	123.1	124.1	1.0
中部局	122.7	122.6	123.1	124.2	124.8	0.6
福井	124.7	125.0	125.2	126.9	127.2	0.3
滋賀	118.0	118.0	118.2	120.1	120.1	0.0
京都	126.0	125.8	125.9	126.1	126.0	▲0.1
奈良	121.5	120.8	120.9	122.1	122.8	0.7
大阪	121.3	121.1	120.8	121.8	122.5	0.7
兵庫	121.1	121.0	121.2	121.8	122.3	0.5
和歌山	120.6	120.6	120.0	121.1	121.0	▲0.1
近畿局	121.9	121.7	121.7	122.8	123.0	0.2
鳥取	124.5	125.7	125.8	127.1	128.4	1.3
島根	128.4	128.5	128.6	130.1	130.6	0.5
岡山	122.5	122.3	122.7	122.8	122.0	▲0.8
広島	123.6	123.5	123.3	124.1	126.0	1.9
山口	123.9	123.7	123.6	124.8	125.7	0.9
中国局	124.6	124.7	124.9	125.9	126.7	0.8
徳島	120.0	118.7	118.6	119.8	120.1	0.3
香川	123.3	123.4	123.2	123.2	122.9	▲0.3
愛媛	124.0	124.0	124.2	124.9	125.5	0.6
高知	132.1	132.2	129.1	129.1	129.1	0.0
四国局	124.6	124.2	123.6	124.2	124.2	0.0
福岡	123.6	123.5	123.5	123.3	123.6	0.3
佐賀	129.3	128.8	128.9	128.7	129.1	0.4
長崎	136.6	136.6	136.7	136.9	137.6	0.7
熊本	123.3	122.7	122.8	123.7	124.3	0.6
大分	131.1	131.1	130.7	130.7	131.1	0.4
宮崎	128.3	128.6	129.0	128.5	128.7	0.2
鹿児島	134.4	133.8	134.3	134.9	135.2	0.3
九州局	129.9	129.5	129.7	129.8	130.2	0.4
沖縄局	132.4	132.1	132.4	132.9	133.3	0.4
九州沖縄局	130.2	129.8	130.1	130.2	130.6	0.4
全国	124.2	124.1	124.2	125.1	125.8	0.7

灯油店頭

地域	2月4日	2月12日	2月18日	2月25日	3月4日	前週比
北海道局	1,625	1,623	1,625	1,626	1,628	2.0
青森	1,502	1,498	1,497	1,502	1,506	4.0
岩手	1,507	1,510	1,505	1,505	1,518	13.0
宮城	1,495	1,489	1,492	1,494	1,502	8.0
秋田	1,519	1,521	1,522	1,535	1,555	20.0
山形	1,546	1,545	1,550	1,566	1,574	8.0
福島	1,532	1,532	1,530	1,541	1,547	6.0
東北局	1,517	1,515	1,515	1,523	1,532	9.0
茨城	1,497	1,494	1,494	1,508	1,519	11.0
栃木	1,556	1,555	1,553	1,573	1,585	12.0
群馬	1,579	1,575	1,573	1,585	1,594	9.0
埼玉	1,557	1,556	1,561	1,567	1,575	8.0
千葉	1,582	1,581	1,582	1,588	1,595	7.0
東京	1,712	1,714	1,708	1,731	1,743	12.0
神奈川	1,651	1,644	1,641	1,646	1,647	1.0
新潟	1,617	1,618	1,620	1,631	1,642	11.0
長野	1,587	1,583	1,577	1,588	1,592	4.0
山梨	1,613	1,617	1,612	1,626	1,640	14.0
静岡	1,653	1,647	1,660	1,668	1,676	8.0
関東局	1,603	1,602	1,601	1,612	1,621	9.0
愛知	1,598	1,597	1,602	1,610	1,612	2.0
岐阜	1,556	1,550	1,547	1,556	1,564	8.0
三重	1,605	1,600	1,605	1,616	1,622	6.0
富山	1,617	1,613	1,621	1,639	1,645	6.0
石川	1,542	1,533	1,533	1,547	1,555	8.0
中部局	1,583	1,579	1,581	1,592	1,598	6.0
福井	1,590	1,591	1,598	1,611	1,615	4.0
滋賀	1,545	1,545	1,549	1,579	1,580	1.0
京都	1,693	1,694	1,697	1,696	1,682	▲14.0
奈良	1,536	1,533	1,536	1,546	1,552	6.0
大阪	1,587	1,595	1,589	1,588	1,589	1.0
兵庫	1,595	1,599	1,600	1,602	1,602	0.0
和歌山	1,582	1,581	1,574	1,581	1,581	0.0
近畿局	1,593	1,594	1,594	1,603	1,601	▲2.0
鳥取	1,596	1,605	1,600	1,615	1,623	8.0
島根	1,656	1,656	1,658	1,683	1,688	5.0
岡山	1,494	1,493	1,513	1,530	1,520	▲10.0
広島	1,587	1,585	1,586	1,596	1,612	16.0
山口	1,580	1,591	1,581	1,582	1,586	4.0
中国局	1,583	1,586	1,590	1,605	1,609	4.0
徳島	1,499	1,488	1,488	1,500	1,503	3.0
香川	1,528	1,529	1,532	1,533	1,528	▲5.0
愛媛	1,607	1,610	1,608	1,609	1,614	5.0
高知	1,713	1,708	1,665	1,665	1,665	0.0
四国局	1,584	1,578	1,572	1,576	1,575	▲1.0
福岡	1,571	1,559	1,560	1,562	1,563	1.0
佐賀	1,684	1,679	1,679	1,677	1,678	1.0
長崎	1,716	1,716	1,715	1,715	1,716	1.0
熊本	1,579	1,577	1,569	1,585	1,594	9.0
大分	1,674	1,673	1,668	1,668	1,672	4.0
宮崎	1,706	1,699	1,707	1,707	1,714	7.0
鹿児島	1,754	1,743	1,755	1,759	1,769	10.0
九州局	1,672	1,666	1,669	1,670	1,675	5.0
沖縄局	1,845	1,840	1,839	1,835	1,853	18.0
九州沖縄局	1,687	1,680	1,683	1,684	1,690	6.0
全国	1,597	1,595	1,596	1,604	1,609	5.0

灯油配達

地域	2月4日	2月12日	2月18日	2月25日	3月4日	前週比
北海道局	1,656	1,657	1,657	1,654	1,663	9.0
青森	1,579	1,578	1,574	1,579	1,584	5.0
岩手	1,625	1,626	1,618	1,622	1,631	9.0
宮城	1,675	1,674	1,674	1,679	1,680	1.0
秋田	1,601	1,602	1,606	1,618	1,633	15.0
山形	1,669	1,669	1,673	1,696	1,702	6.0
福島	1,687	1,687	1,689	1,705	1,708	3.0
東北局	1,642	1,642	1,641	1,652	1,658	6.0
茨城	1,660	1,654	1,659	1,669	1,680	11.0
栃木	1,690	1,687	1,685	1,706	1,720	14.0
群馬	1,732	1,734	1,731	1,751	1,761	10.0
埼玉	1,741	1,734	1,742	1,749	1,758	9.0
千葉	1,742	1,741	1,742	1,752	1,756	4.0
東京	1,980	1,989	1,985	2,000	2,016	16.0
神奈川	1,840	1,832	1,830	1,837	1,835	▲2.0
新潟	1,828	1,833	1,830	1,838	1,851	13.0
長野	1,773	1,769	1,771	1,776	1,777	1.0
山梨	1,766	1,766	1,767	1,779	1,790	11.0
静岡	1,855	1,845	1,861	1,874	1,883	9.0
関東局	1,780	1,779	1,779	1,790	1,800	10.0
愛知	1,761	1,766	1,764	1,774	1,779	5.0
岐阜	1,712	1,713	1,713	1,719	1,733	14.0
三重	1,797	1,796	1,796	1,809	1,822	13.0
富山	1,747	1,748	1,747	1,776	1,777	1.0
石川	1,700	1,697	1,697	1,709	1,716	7.0
中部局	1,741	1,742	1,741	1,754	1,762	8.0
福井	1,729	1,736	1,742	1,751	1,758	7.0
滋賀	1,698	1,698	1,710	1,741	1,744	3.0
京都	1,857	1,859	1,852	1,861	1,848	▲13.0
奈良	1,691	1,691	1,695	1,705	1,715	10.0
大阪	1,728	1,744	1,731	1,727	1,732	5.0
兵庫	1,817	1,834	1,834	1,837	1,845	8.0
和歌山	1,758	1,757	1,758	1,766	1,776	10.0
近畿局	1,758	1,765	1,765	1,776	1,778	2.0
鳥取	1,826	1,842	1,831	1,851	1,854	3.0
島根	1,828	1,825	1,828	1,848	1,854	6.0
岡山	1,737	1,737	1,733	1,740	1,741	1.0
広島	1,741	1,741	1,746	1,756	1,770	14.0
山口	1,793	1,808	1,798	1,797	1,801	4.0
中国局	1,785	1,790	1,789	1,801	1,807	6.0
徳島	1,684	1,672	1,672	1,678	1,683	5.0
香川	1,723	1,725	1,724	1,724	1,720	▲4.0
愛媛	1,796	1,802	1,800	1,800	1,804	4.0
高知	1,833	1,822	1,777	1,777	1,777	0.0
四国局	1,757	1,750	1,742	1,744	1,745	1.0
福岡	1,736	1,729	1,723	1,725	1,727	2.0
佐賀	1,854	1,849	1,848	1,833	1,838	5.0
長崎	1,916	1,917	1,916	1,916	1,916	0.0
熊本	1,683	1,687	1,676	1,731	1,738	7.0
大分	1,790	1,792	1,789	1,790	1,795	5.0
宮崎	1,842	1,832	1,838	1,840	1,832	▲8.0
鹿児島	1,863	1,852	1,863	1,866	1,876	10.0
九州局	1,813	1,808	1,810	1,815	1,819	4.0
沖縄局	1,877	1,905	1,898	1,898	1,898	0.0
九州沖縄局	1,818	1,815	1,816	1,821	1,825	4.0
全国	1,752	1,753	1,752	1,761	1,767	6.0

出典「石油製品小売市況調査」（資源エネルギー庁）

スポット市況の推移

（単位：円/ℓ）

2月11日～2月17日	京浜	前週比	中京	前週比	阪神	前週比	瀬戸内	前週比
ガソリン・陸上	109.8~113.3	▲0.2~1.0	109.5~113.3	0.0~1.0	109.0~113.3	0.0~1.0	109.5~113.3	0.0~1.0
灯油・陸上	60.0~62.0	0.0~0.5	60.0~62.0	▲0.3~0.5	60.0~62.0	0.0~0.5	60.0~62.0	0.0~0.5
軽油・陸上	59.6~62.0	0.3~1.0	59.6~62.0	0.3~1.0	59.6~61.5	0.3~0.5	59.6~62.0	0.3~1.0
A重油・陸上	58.3~60.0	0.0~0.8	58.5~60.0	▲0.5~0.5	58.0~60.0	▲0.3~0.8	58.3~60.0	0.0~0.8

2月18日～2月24日	京浜	前週比	中京	前週比	阪神	前週比	瀬戸内	前週比
ガソリン・陸上	110.3~115.0	0.5~1.7	110.3~115.0	0.8~1.7	110.3~115.0	1.3~1.7	110.3~115.0	0.8~1.7
灯油・陸上	60.5~64.0	0.5~2.0	60.5~64.0	0.5~2.0	60.5~64.0	0.5~2.0	60.5~64.0	0.5~2.0
軽油・陸上	60.4~64.0	0.8~2.0	60.4~63.5	0.8~1.5	60.0~63.5	0.4~2.0	60.4~64.0	0.8~2.0
A重油・陸上	59.3~62.0	1.0~2.0	59.3~62.0	0.8~2.0	59.0~62.0	1.0~2.0	59.3~62.0	1.0~2.0

2月25日～3月3日	京浜	前週比	中京	前週比	阪神	前週比	瀬戸内	前週比
ガソリン・陸上	112.1~116.0	1.8~1.0	111.3~116.0	1.0~10	110.8~116.0	0.5~1.0	111.3~116.0	1.0~1.0
灯油・陸上	62.0~65.0	1.5~1.0	61.5~65.0	1.0~1.0	61.0~65.0	0.5~1.0	61.0~65.0	0.5~1.0
軽油・陸上	61.3~65.0	0.9~1.0	61.3~65.0	0.9~1.5	61.3~65.0	1.3~1.5	61.3~65.0	0.9~1.0
A重油・陸上	60.5~63.0	1.2~1.0	60.5~63.0	1.2~1.0	60.0~63.0	1.0~1.0	60.5~63.0	1.2~3.0

3月4日～3月10日	京浜	前週比	中京	前週比	阪神	前週比	瀬戸内	前週比
ガソリン・陸上	114.1~116.0	2.0~0.0	113.0~116.0	1.7~0.0	113.0~116.0	2.2~0.0	113.0~116.0	1.7~0.0
灯油・陸上	63.0~65.0	1.0~0.0	62.5~64.5	1.0~▲0.5	62.5~64.5	1.5~▲0.5	62.5~64.5	1.5~▲0.5
軽油・陸上	63.3~65.0	2.0~0.0	63.3~65.0	2.0~0.0	63.3~65.0	2.0~0.0	63.3~65.0	2.0~0.0
A重油・陸上	61.5~63.0	1.0~0.0	61.5~63.0	1.0~0.0	61.5~63.0	1.5~0.0	61.5~63.0	1.0~0.0

ガソリン需給緩和感

国内外ともに峠越す

製油所の定期修理とガソリン需要期への切り替わりのタイミングを迎え、著しく低迷していたガソリン海外市況に、改善の兆しが見え始めた。プラッツによると、シンガポール製品市場では、ガソリンクラック・スプレッド（原油価格と製品価格の差）がマイナスに陥る状態が、１月中旬から約１カ月にわたって続いたが、２月下旬以降はプラス圏に回復している（５日付２面既報）。

海外市況の回復を受けて、足元のガソリン輸入採算価格とＴＯＣＯＭ期近価格の差はほぼ解

近畿版

大阪支局
〒550-0011
大阪市西区阿波座1-15-15
第一協業ビル
電話06(6534)4181~2
FAX06(6534)4184

系列代表SS特集

SS併設「PLANT」木津川市に来月オープン

ガソリン価格注視も採算維持へ静観肝要

【木津川市＝京都】福井県坂井市に本社を置くPLANTが店舗展開するスーパーセンターが来月、京都府木津川市にオープンする。併設のSSもほぼ完成し開所時のガソリン販売価格が注目される。周辺のSS市況への影響が不安視されるものの、静観姿勢を強めながら採販を維持したいところだ。

PLANTの福井県下の店舗に併設するSSの価格動向をみると、直近ではレギュラーでリッル128～129円。地元周辺のSS市況はバラつき気味で、PLANTのSS価格への対応にも温度差がみられるなど、周辺市況への影響は決して小さくない。

木津川店は高台にある住宅街に位置し、国道24号線や163号線などの幹線から離れている。ただコストコのように特別な会員制度はなく、誰でも現金で給油できる。同店舗の来店客や近隣住民を中心にガソリンと灯油を販売するのが狙いとみられる。

一方、木津川市を含む京都府南部市場は、奈良市など奈良県北部と隣接しSS市況がやや不安定な地域でもある。「PLANTのSS価格が京都府内にとどまらず、奈良県市場にも影響するのではないか」との見方も出てきているが「一部SSがPLANTの価格に近い水準で追随したとしても、静観することが肝要だ」との声が大勢だ。

幹線からはずれた立地とはいえ、同店舗の来店客や周辺住民には店頭表示価格は分かる。周辺の既存SSが粘り強く採販維持できるかどうか。上場企業の商業施設併設型SSの販売価格動向を注視するとともに、SS経営環境への影響が大きい場合の対応などが焦点となりそうだ。

PLANTの併設SS

奈良市周辺

市況好転も底上げ継続
収益確保の再認識 必要

【奈良】3月第2週入り後、奈良市周辺の市況は上昇傾向が続く元売仕切りなどの影響を受け好転している。フルサービスSSはリッル148円前後が大勢を占め、前週に続き堅調。セルフSSは139円前後が主流で前週から4～6円上昇した格好だ。

一方、安値業者や安値商圏の動きは二極化した。セルフSS乱立商圏のフルSSでは140円前半～半ばで踏ん張る業者と130円台半ばを掲げる業者に別れた。セルフSSでも大方が136円前後まで値を上げたが、130～133円にとどまったSSもある。

2月後半、市況改善の兆しが見られた際に問題視された元売販社SSは適正価格まで値を上げた。今後、ほかの販社SSや価格を据え置く県外業者、商社系やPB（プライベートブランド）SSの動向により、改善が進むか下落するか変わってくる。現状の価格帯を維持し、さらなる収益確保へステップアップしたいところだ。

大阪1月大口軽油

SS平均103円40銭
ローリー買い92円50銭

【大阪】運送事業者団体調べによる大阪府内1月の軽油大口納入価格（消費税別）は、SS買い加重平均で前月比リッル3円70銭安の103円40銭、ローリー買いは2円50銭安の92円50銭だった。昨年11月以降続落で、3カ月合計でSS買いが13円90銭、ローリー買いは15円40銭と大幅な下落を見せている。

1月の元売別SS買い、ローリー買いの平均値は次の通り。

▽SS買い＝JXTG系ENEOS104円20銭（3円90銭安）、出光102円30銭（5円10銭安）、昭シ102円（4円50銭安）、JXTG系モービル102円50銭（4円60銭安）、同エッソ112円50銭（2円50銭高）、コスモ103円30銭（3円60銭安）、その他102円10銭（3円10銭安）

▽ローリー買い＝JXTG系ENEOS91円70銭（3円20銭安）、出光93円30銭（3円80銭安）、昭シ90円90銭（2円40銭安）、JXTG系モービル94円60銭（4円40銭安）、同エッソ94円（2円安）、同ゼネラル91円50銭（1円60銭安）、コスモ92円10銭（2円70銭安）、その他93円20銭（2円80銭安）。

贈呈式のようす

ーエネクスフリートー

大阪府から感謝状
児童養護施設への寄付活動で

【大阪】エネクスフリート（本社大阪市淀川区・茂木司社長）は5日、同社が行った府内の児童養護施設へのB・LEAGUE（プロバスケットボールリーグ）観戦チケット寄付活動が、府民の福祉増進に寄与したとして昨年に続き大阪府から感謝状を授与された。

贈呈式にはスポンサー契約している大阪エヴェッサの選手とマスコットキャラクターの「まいどくん」、エネクスフリートの「エネぴぃ」、大阪府の「もずやん」が参加した。

同社は地域スポーツ振興活動の一環として、同リーグ1部の大阪エヴェッサとシーズン中のオフィシャルゴールドパートナー契約を締結しており、今回は府内の施設と大阪府バスケットボール協会に観戦チケット1029枚を寄贈した。

勝山浩司取締役は「企業理念として重要視する地域社会に密着した姿勢を示すため、大阪エヴェッサとの契約をきっかけに、府内の子どもたちに還元することになった。今後も地域振興に積極的に取り組み、来年もこのような機会があれば、ぜひ続けていきたい」と話した。

一方、大阪府福祉部子ども室家庭支援課の金森充宏参事は「プロバスケットボールの試合観戦は施設の子どもたちの励みとなり、エヴェッサの選手に感謝の手紙を送るなどしている」と感謝の意を示した。

大阪モーターサイクルショー JAF関西本部が出展

【大阪】JAF関西本部（大阪府茨木市・堀内俊樹本部長）は、3月15～17日にインテックス大阪（大阪市住之江区）で開催の「第35回大阪モーターサイクルショー2019」にブースを出展する。

リフレクBOX（イメージ）

ブースではJAFホームページのナビゲーターキャラクター・久留間まもりに扮したMCやコンパニオンが来場者に無料のスマートフォン用アプリケーション「JAFデジタル会員証」などを案内。またブースで同アプリに登録または同アプリを提示した来場者にはオリジナルグッズをプレゼントする。

このほか反射材の効果を体験する「リフレクBOX」やオリジナルグッズが必ず当たるスタンプラリーなども実施する。

31年度の新エネ産業創出事業補助金

大阪府公募開始

【大阪】大阪府はこのほど、蓄電池、水素・燃料電池などの新エネルギー関連産業について、府内企業による研究開発や実証実験などに対する一部助成を行う「新エネルギー産業（電池関連）創出事業補助金」の公募を開始した。

公募対象は府内に事業所などを有する事業者または府内で創業予定者。対象事業は蓄電池や水素・燃料電池といった電池や材料・部材・装置、電池を活用した新たな製品などの研究開発・実証実験や、新しい電池材料・試作品などのデータ収集・試験分析・評価など。

補助金額は①中小企業者②発行済み株式の総数または出資金額（総額）の2分の1以上を同一の大企業が所有する企業③発行済み株式の総数または出資金額（総額）の3分の2以上を大企業が所有する企業④大企業の役員または職員を兼ねている者が役員総数の2分の1以上を占める企業に対し上限750万円で対象経費の2分の1以内。それ以外の企業に対しては同額で同3分の1以内。

応募期間は4月5日まで。応募先・問い合わせは大阪府商工労働部成長産業振興室産業創造課新エネルギー産業グループ。

1月有効求人倍率1・78倍

大阪労働局

【大阪】大阪労働局によると、管内の1月の有効求人倍率は1・78倍で、前月と同水準。有効求人数は前月より2・2%減少と10カ月ぶりに減少。有効求職数は前月より2%減少と4カ月ぶり減少。新規求人数は2カ月ぶりの増加した。

増加の主な産業は「建設業」「製造業」「運輸業、郵便業」「学術研究、専門・技術サービス業」「教育・学術支援業」「医療、福祉」「サービス業」。新規求人申込件数は3カ月連続の減少。

正社員有効求人倍率は1・34倍と前年同月比で0・08ポイント上昇（104カ月連続の上昇）、正社員新規求人数は4・9%増加と2カ月ぶりの増加。

同局では「現下の雇用失業情勢は着実に改善している」とみている。

なお近畿の1月の有効求人倍率は1・61倍、全国は1・63倍となっている。

業界天気図

データ化しタイミングよく訴求

オイルなど交換理由は明確に

SSでタイヤやオイルの交換ができると知っているがディーラーなどに任せている――1月に掲載した女性ドライバーアンケートで多かった回答だ。

SSで交換しない理由はさまざまだったが、掲載記事を目にした関係者は「回答として〝なぜオイル交換が必要なのか教えてもらえなかった。女性は必要性を感じないと交換しない〟といった内容があったが、男性、女性にかかわらず、交換理由が明確でなければ現代のドライバーは納得しない」と指摘する。

オイルは交換しなければエンジンの不具合や故障などトラブルのリスクが高まる。タイヤを交換しないでいれば、スリップやバーストといった事故につながるだけではなく、燃費にも影響する。近年では衝突被害軽減ブレーキを搭載する車が増加しているが、タイヤの性能が落ちると停車までに想定以上の時間がかかる。

SSマンであれば誰でも知っていることだが、一般ドライバーは知らないケースが少なくない。また口頭で伝えても、十分理解されないこともある。

同関係者は「車がステータスだった時代と違い、いまはクルマが単なる移動手段。車への興味が薄くなった分、エンジンなど車についての知識や認識が低くなっている。交換を提案する際には、口頭だけではなく、写真や動画を見せ、交換しないとどのような事態になるか、明確に訴える必要がある」と話す。

声かけのタイミングも重要だ。オイルやタイヤを交換したばかりなのに、キャンペーン期間中だからと何度も声をかけられれば、親しい常連客でも愛想を尽かすだろう。前回の交換時期などをデータ化し、顧客別に的確なタイミングで提案することも重要だ。

本当に必要なものを、必要なタイミングで明確に提案する。商材提案の基本だが、あらためて自社の提案方法を見直してみてはどうか。（大阪）

平成31年1月近畿経済産業局管内石油製品販売実績

（単位：上段kℓ、下段対前年同月比%）

	ガソリン	ナフサ	ジェット燃料	灯油	軽油	A重油	C重油	重油計	燃料油計
福井県	27,459			22,701	18,830	6,137	2,189	8,326	77,316
	93.6			87.4	98.5	88.5	12.2	33.6	77.9
滋賀県	45,884			23,051	26,912	5,392	8	5,400	101,247
	97.2			87.4	98.7	90.5	28.6	90.2	94.8
京都府	56,062			19,635	28,798	5,585	4,014	9,599	114,094
	98.5			90.8	103.8	71.0	173.6	94.3	98.0
大阪府	186,316	91,588	23,967	51,797	139,959	26,022	28,902	54,924	548,429
	95.9	85.0	137.7	78.4	101.6	99.1	95.9	97.4	94.7
兵庫県	128,007	1,495	13,894	55,979	93,896	29,911	10,530	40,441	333,530
	96.4	99.7	62.5	82.1	106.8	103.2	180.9	116.2	96.0
奈良県	35,134			12,072	13,329	2,753		2,753	63,288
	98.1			84.8	103.8	104.8		104.8	96.6
和歌山県	26,599	67,255	186	11,394	13,046	11,119	78	11,197	129,677
	103.8	81.8	98.4	96.8	123.4	102.8	0.7	52.0	85.4
近畿合計	505,461	160,338	38,047	196,325	334,770	86,919	45,721	132,640	1,367,581
	96.8	83.7	95.5	83.9	103.6	97.2	68.3	84.8	93.2

近畿2府5県・1月

燃油販売前年比93.2%
暖冬で灯油は83.9%

【大阪】石油連盟が発表した近畿2府5県（福井含む）の1月の燃油販売実績は前年同月比93・2%の136万7581㌔と6カ月連続で減少した＝別表参照。ガソリンは和歌山以外の府県が減少。近畿全体でも96・8%の50万5461㌔となり、24カ月連続で減少した。急速な少子高齢化による人口減少やHV（ハイブリッド車）など省エネカー増加でガソリン需要減少が確実視されるなかで、カーケア販売を強化するSSは増えている。

灯油は前月に続いて暖冬の影響で全府県が減少し、近畿全体では83・9%の19万6325㌔と減販した。軽油は福井と滋賀以外の府県で増販。近畿全体では103・6%の33万4770㌔と増販した。A重油は97・2%の8万6919㌔と減販。ナフサも83・7%の16万3338㌔と減販。C重油も68・3%の4万5721㌔と減販した。

府県別のガソリン販売量は福井2万7459㌔（前年同月比93・6%）、滋賀4万5884㌔（97・2%）、京都5万6062㌔（98・5%）、大阪18万6316㌔（95・9%）、兵庫12万8007㌔（96・4%）、奈良3万5134㌔（98・1%）和歌山2万6599㌔（103・8%）となっている。

12月カーケア粗利で成果
スマートビークル本格始動
足立石油・八条SS

堀江秀留所長

足立石油八条SS（コスモ系＝京都市南区・堀江秀留所長）は、コスモ石油マーケティング関西支店（辻本伊久治支店長）が昨年12月に実施したカーケア・ビークル「冬の陣」のカーケア粗利部門で、ギネス達成率1位（135%）を獲得する成果を上げた。

ガラスコーティングなど付加価値の高いメニューを含む洗車部門、コンスタントに月10台前後を受注する車検のほか、販売本数が倍増したタイヤ販売にからむ作業収益が大幅に向上。カーケア全般の商材のバランス販売の実践で好実績につなげている。近年強化する車販売が軌道に乗り始めているのも強みだ。

地元のオーナードライバーと企業、個人商店など固定客を中心に洗車需要は堅調。「車を大切に使用されているお客さまが多く、受注強化するガラスコーティングも順調に伸びている」と洗車全般での高品質の仕上がりには定評がある。

現在3台で展開する「ニコニコレンタカー」は、車を所有しない近隣住民などのニーズが上昇し、リピーター層が拡大しているという。本格始動したスマートビークル（カーリース）では、2月に同SSとして初の成約が決まった。

「フルサービス店の基本である良質の接客サービスで、お客さまから〝ありがとう〟の言葉をいただける店づくりを心がけたい」（堀江所長）と地域のSSとして存在価値を高める。

東海・北陸版

名古屋支局
〒450-0002
名古屋市中村区名駅5-4-14
花車ビル北館3階
電話052(582)5826
FAX052(561)3230
金沢支局
〒920-0276
石川県河北郡内灘町
緑台2-27-1
電話076(201)8700
FAX076(201)8705

2月仕切りと業転の価格差
ガソリン1円20銭拡大
東海3県

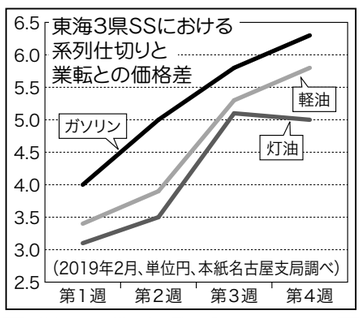
【名古屋】本紙名古屋支局調べによると、東海3県における2月（2月4日～3月1日）の元売仕切りと業転との価格差は、平均でガソリン㌔5円28銭、軽油4円60銭、灯油4円18銭それぞれ仕切り高、業転安だった。前月（1月）とくらべてガソリンで1円20銭、軽油で72銭、灯油で53銭それぞれ価格差が拡大した＝グラフ参照。

元売仕切りは、大手元売4社のSS届けと建値中値。業転価格は、東海3県SS届けの中値平均値で算出した。

2月における元売仕切りと業転との価格差の動きをみると、ガソリンは第1週の4円から第4週の6円30銭に価格差が拡大した。軽油は第1週の3円40銭から第4週の5円80銭に、灯油は第1週の3円10銭から第4週の5円にそれぞれ価格差が拡大した。

東海3県の2月の週別元売仕切り中値は、ガソリン（ガソリン税別）で61円80銭～65円80銭、軽油と灯油で64円80銭～68円80銭だった。

東海3県平均の2月週別業転中値は、ガソリン（ガソリン税別）で57円80銭～59円50銭、軽油で61円40銭～63円、灯油で61円70銭～63円80銭だった。



岐阜県東濃地区西部
140円台前半が大勢
一部安値への危機感高まる

【多治見市＝岐阜】多治見、土岐、瑞浪の3市がある岐阜県東濃地区西部では、セルフのガソリン価格が上昇した。元売仕切りの値上がりによるもので、値上がり幅は㌔1～3円。同地区セルフのガソリン価格は4日現在、現金会員144円中心、元売カードなど140～141円で、同地区セルフの多くで130円台看板が一掃された。

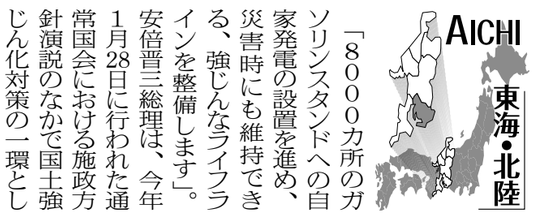
同地区で転嫁値上げ機運が高まった背景に、独立系など安値セルフの小売り値上がりがある。地元業者によると、これら安値セルフが2月21日以降に2円、28日以降に1円と2週連続で値上げした。しかし値上がり後も現金会員やメール会員などで134～138円看板を掲出しており、地元SSは安値店との価格差に危機感を抱いている。

同地区のあるSSは「2月末時点で当系列の元売仕切りと安値業転との価格差が6～7円も開いている。これでは独立系など安値セルフに価格競争力で負けてしまう。客数が減ると油外販売も厳しくなるだろう。元売には、仕切りと業転との価格差縮小に向けて何らかの対応をしてもらわないと困る」と語っている。

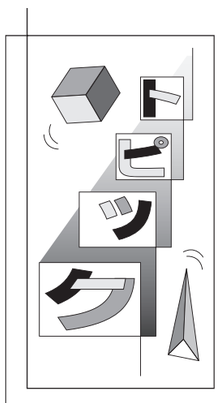
セルフ転嫁値上げ
マージン改善の課題残る
金沢市内

【金沢】金沢市内のほとんどのセルフは1～5日にかけてガソリン価格を㌔1～3円値上げした。系列セルフの会員価格は底値が133円、中値が135円、高値が136円となった。PB（プライベートブランド）セルフも合計3円値上げし、134円となっている。

ガソリンの系列仕切りは今年1月中旬から3月初旬まで合計8円～8円50銭上昇、県内の業転価格も5円～7円70銭上昇した。一方、同期間中に店頭価格は系列セルフが6～9円、PBセルフが9円値上げした。おおむね仕入れコスト通りもしくは若干上回る転嫁幅となった。しかし元々1月中旬時点の店頭価格が安かったうえに、転嫁幅が7円だった系列セルフはガソリン単位マージンが若干悪化した。今月5日現在、特約店向け仕切りは税込み130円のもようだが、系列セルフの会員135円では単純計算でマージンは5円。給油客の利用が浸透しているQRクーポンなど値引き戦略も考慮すると、マージンはさらに落ち込むため、非常に厳しい経営環境であることに変わりはない。



インフラとして存在感高まる
東海地区
客と接点強化が課題



「8000カ所のガソリンスタンドへの自家発電の設置を進め、災害時にも維持できる、強じんなライフラインを整備します」。安倍晋三総理は、今年1月28日に行われた通常国会における施政方針演説のなかで国土強じん化対策の一環としてこう語った。業界関係筋によると、過去の施政方針演説でSSに言及したのは今回が初めて。このことは災害時におけるSSの重要性が社会的にかなり認識されていることの証しであるといえる。東海地区では、明日にも大規模地震が襲ってくるかもしれない。東海地区の石油販売業者は、この社会的な要請に応えるため、ひいては業界発展や自らの商売のために行動しなければならないといえそうだ。

住民拠点SSへの登録が、この第一歩となりうる。

住民拠点SSへの登録は、地域住民に大規模災害時でも燃料油を供給できる安心感を与える。このことは認識が高まりつつある石油販売業界の社会的な存在感をさらに強化することになり、ひいては顧客囲い込みにつながる可能性がある。

東海地区の複数の石油販売業者は、住民拠点SS登録への障壁として「自家発電設備に対する国の補助に消費税が含まれていないことや、発電装置の保管場所難、災害時における供給責任など、住民拠点SS登録にかかわる負担が、意外に大きい」ことをあげている。

しかし前記のようなメリットを考えると、住民拠点SSになる価値は十分にある。極端な例をあげると、業界イメージの向上で求人がしやすくなるかもしれない。また顧客は、災害時の燃料油確保のため価格の安いセルフに移りにくくなる可能性も指摘されている。

NHKの朝ドラのように「世のため人のために」が成功に結びつくと考えるのは早計だろうか。

（名古屋）

東海北陸SS特集

ガソリン価格128～152円
3月7日～4月6日三重県庁向け

【津】三重県石協（亀井喜久雄理事長）が納入窓口の三重県庁関係向けガソリン、軽油価格（3月7日～4月6日・消費税別）が別表のように決まった。

前回（2月7日～3月6日）とくらべて、レギュラーガソリンは桑名、松阪、伊賀で㌔3円、鈴鹿、津、伊勢、尾鷲で2円、四日市、志摩で1円それぞれ値上がりした。熊野は横ばいだった。高値は尾鷲の152円、安値は鈴鹿の128円。平均価格は137円で、前回よりも1円90銭値上がりした。

軽油は、伊賀で4円、桑名、鈴鹿で3円、松阪、伊勢、尾鷲で2円、四日市、津、志摩で1円値上がりした。熊野は横ばい。高値は尾鷲の137円、安値は鈴鹿の113円。平均価格は122円80銭で、前回より1円90銭値上がりした。

三重県庁関係契約価格(2019年3月7日～4月6日まで)

契約単価　（単位：円、消費税抜き）

品目	規格（ℓ）	桑名	四日市	鈴鹿	津	松阪	伊勢	志摩	伊賀	尾鷲	熊野
ガソリン	ハイオク	144	144	139	141	146	145	148	147	162	158
	レギュラー	134	133	128	130	136	135	138	137	152	147
軽油	課税分	118	119	113	118	124	122	124	119	137	134

▷桑　名＝桑名市、桑名郡、いなべ市、員弁郡　▷四日市＝四日市市、三重郡
▷鈴　鹿＝鈴鹿市、亀山市　▷津＝津市　▷松　阪＝松阪市、多気郡　▷伊　勢＝伊勢市、度会郡　▷志　摩＝志摩市、鳥羽市　▷伊　賀＝伊賀市、名張市　▷尾　鷲＝尾鷲市、北牟婁郡　▷熊　野＝熊野市、南牟婁郡

富山県石商・協
役員会を開催
「再投資可能な業界へ努力」

【富山】富山県石商・協（島竜彦理事長）は2月28日、富山市内で役員会を開催した。

冒頭、島理事長は「系列仕切りは1月以降、JXTGエネルギーの場合、㌔7円上昇したが、店頭価格には満額転嫁できていない。口銭は約3円50銭圧縮しており、厳しい状況が続いている。昨年10月以降、ガソリンの売れ行きが若干悪い。需要減少下では口銭をもらって、SSの収支バランスを取るのが本来の姿だ。油外販売にも力を注ぎながら、収支バランスが取れる再投資可能な業界にしていく努力を今後も続けていこう」と語った。

島竜彦理事長

役員会では、住民拠点SS整備事業、POS補助事業、緊急用配送用ローリー補助事業などについて説明した。滝田茂専務理事は「カードリーダーのみの入れ替えも補助対象となる。ローリーも油種制限や配送量拡大の要件がなくなる。どちらも予算が増え、要件も緩和しているので、利用してほしい。4月中旬以降から受け付けが始まる見通し」と説明した。

A重油65円で落札
松阪市民病院向け3月分入札結果

【松阪市＝三重】松阪市民病院と松阪地区広域衛生組合向け3月分のA重油入札が行われた。市内、準市内の石油販売業者3社が応札し、三重交通商事（本社津市）松阪京町営業所が㌔65円（消費税別）で落札した。前月とくらべて5円50銭値上がりした。月間納入量は78・6㌔。

市営の篠田山斎場向け3月分の白灯油には3社が応札し、山室石油（本社松阪市）が67円（消費税別）で落札した。前月とくらべて4円50銭値上がりした。月間納入量は13㌔。

宇佐美グループ
キーパーチャンピオン決定戦
本田修平氏が優勝

【名古屋】宇佐美鉱油など宇佐美グループ（本部名古屋市・宇佐美三郎代表）はこのほど、キーパー技研名古屋営業所（愛知県大府市）でキーパーチャンピオン決定戦を行った。今回で4回目を迎えた同決定戦には、全国各地の予選を勝ち抜いた精鋭36人が出場。昨年以上にレベルの高い熱戦が展開された結果、本田修平氏（千葉茨城販売支店16号柏藤ヶ谷SS）が優勝した（写真）。千葉茨城販売支店は、今回で4連覇を成し遂げた。

開会式で高橋智幸宇佐美鉱油販売統括本部SS販売本部長と谷好通キーパー技研社長が出場選手を激励した。

競技は、クリスタルキーパーの施工技術を競った。施工時間を加点し、総合得点で本多氏が優勝。準優勝は南智樹氏（宇佐美エナジー十三SS）、南さんは2年連続の準優勝。3位は山本鉱平氏（東京販売支店環七葛西インターSS）となった。

閉会式で河野中宇佐美鉱油取締役統括販売本部管掌が、出場選手をねぎらうとともに「今後に期待したい」と講評した。

宇佐美鉱油宇佐美グループは、キーパーをカーケア収益の主軸商品として位置づけており、同大会は施工技術の向上や全社で均一な商品提供を実現する目的で行われている。出場選手は「今後、キーパー選手権都道府県大会チャンピオン、最終的には全日本チャンピオンを目指す」と抱負を語った。

車販、車検で伸長
コスモMyカーリース倍増目指す
アワヘイ・アルファステーション堅神

アワヘイ（コスモ系＝本社三重県鳥羽市・阿部康之社長）アルファステーション堅神（鳥羽市堅神町・阿部登統括所長）は、地域密着型の油外型セルフで、車検台数は年間900台、車販は買取を含む取引台数で年200台と好調だ。10年ほど前に車販、車検、整備に力を入れ、3年前から現台数を維持している。特に車販事業では、コスモMyカーリースの台数を今後2倍に増やし収益向上につなげたい考えだ。

同SSは、平成19年にセルフ化し、その翌年に整備指定工場を立ち上げた。平成22年に車販に力を入れ始めた当時は月間1～2台だったが、現在は取引台数で同15～20台にまで伸長。なかでもコスモMyカーリースは月間1～2台と実績が安定している。阿部統括所長は「コスモMyカーリースは利益率が高く、整備で顧客を固定化できるので、とても魅力を感じている。お客さまにとっても月々の支払いが一定というメリットもある」と語る。

現在では、車販、車検客のうち給油客以外が半分ほどを占めている。阿部統括所長は「鳥羽市の人口は年々減少しており、燃料油の増販は期待しにくい。当店では車検、車販台数アップのため、クルマのことなら何でもできることをお客さまにアピールしている。その甲斐あって、リピート客やお客さまからの紹介による受注が増えている」と話す。

同SSの自動車用燃料油の販売量は月間200㌔弱。油外収益は月間平均600万円で、そのうち車販、車検、整備が油外収益の8～9割を占めている。整備士資格保有者5人のうち4人が2級を取得しており、技術力の向上が実績に結びついている。

阿部統括所長は「当店は、販売後のフォローに力を入れている。多少のクレームであれば聞き入れ、割り切った対応はしていない。当店が整備できない場合でも、地元整備工場やディーラーの協力を得ながらお客さまの困り事を何でも引き受ける態勢を整えている」と話した。

KYGNUS
KYGNUS×JACCS
キグナスジャックスカード
登場

5つの無料！　1 入会金　2 年会費　3 家族会員　4 ETCカード発行手数料　5 ETCカード年会費
入会特典　ハイオク・レギュラー・軽油・灯油　入会から100ℓまで　10円／ℓ引き！
会員特典　ハイオク・レギュラー・軽油・灯油　いつでも　1円／ℓ引き！
※入会特典・会員特典は適用条件があります。※カードショッピング取引条件については、入会申込書にてご確認ください。
キグナス石油株式会社
www.kygnus.co.jp
中部支店　支店長　荒木 久司

TBA・機械工具版

電話03(6667)1037
FAX03(6667)1041

健康経営の優良法人に住友ゴム

住友ゴム工業は、経済産業省と日本健康会議が共同発表した「健康経営優良法人2019」（ホワイト500）に認定された。

同社が昨年制定した「健康経営宣言」の実践による定期健康診断や特定保健指導の推進による生活習慣病などの疾病予防、健康増進やワークライフバランスの推進などの取り組みが評価された結果だ。2017年から3年連続の認定だ。

具体的な取り組みでは①定期健康診断の徹底②健康教育・イベントの拡大と健康情報の発信③メンタルヘルスケア④喫煙対策⑤過重労働防止の取り組みーなどに努めている。

消せない〝空回り感〟
新車装着はデザイン式

新入社員やアルバイト・パートでも、基本をマスターすれば点検・商談・作業とも難しくないのがワイパー販売だ。しかしSS店頭に目をやれば、ワイパーが売れないSS（売ろうとしないSS）ばかりが目に飛び込む。①在庫のミスマッチング②ぎっしり詰まった油外販売スケジュールが、ワイパー販売を蚊帳の外に押しやっている―の2点が浮かび上がる。

売れて！儲かる！ワイパー②

ENEOSトレーディングが支援強化

最初に「SSでのワイパー在庫のミスマッチング」を検証する。

メーカー調査から、デザインワイパーの新車装着比率（2015年販売台数からの算出で、軽自動車を除く）をみると①NWBデザイン形状ワイパー＝約50％②ホンダデザイン形状ワイパー＝約18％③フラット形状ワイパー＝約12％④トヨタ新形状ワイパー＝約5％⑤従来形状のトーナメントワイパー＝約15％。

ENEOSトレーディングのPB（プライベートブランド）ワイパーでは、クリップ形状が異なる④には対応できないが、そのほかは対応できる。雪用については①～⑤まですべて対応できる。

メーカー筋は「2020年には保有台数の3分の1がトーナメント以外を装着する」と予測する。

同社は、多様化するワイパーニーズに対応するために雪用トヨタ新形状クリップ対応ワイパーの発売などで、PBワイパーのラインアップの拡充を図る。同社は「今後も、市場動向やロールプレイング・交換作業などを研修会で情報提供していく方針」と意気込む。

しかしJXTG系SS店頭に目をやれば、前出のわずか全体の15％にとどまるトーナメントワイパーばかりが目につく。

記者の愛車は代表的な大衆車「カローラ・アクシオ」で、新車当時からデザインワイパー装着だ。しかし一昨年12月にワイパーのゴム部が破損した際に、千葉県内の大手石油販売業者の2SS（ENEOSとエッソマーク）に助けを求めたが、2SSとも口にしたのは「在庫はトーナメント式だけ。デザインワイパーは取り寄せ」とつれない返事だった。

仕事柄、ワイパー交換はSSを最優先したが、記者を助けてくれたのは「タイヤ館」（BS系列）だった。しかもタイヤ館はアッセンブリー交換ではなくゴム交換だったため、記者の出費も半額程度で収まった。

各元売商事の視線の先にあるのは、PBバッテリーを筆頭に車検や洗車、オイルなどに映る。優先順位からすれば、ワイパーは「常に下位」の気もする。

こうした状況下で、豊富なラインアップを誇り、研修会開催にも熱心な同社のスタンスは「競合他社を圧倒」にも映る。しかし系列SS店頭をトーナメントワイパーが占める現状に目をやると、申し訳ないが「空回り感」も否めない。

（つづく）

油外拡販策などプレゼン
GS甲子園決勝大会
あいおいニッセイ

白熱したプレゼン審査

あいおいニッセイ同和損害保険は「第6回GS甲子園決勝大会」を先頃実施した。あいおいが協力してGS甲子園運営事務局が主催する、ガソリンスタンド運営の好取り組み事例を競うイベント。覆面モニター調査など大会独自基準で選ばれた4組が登壇、顧客固定化や油外販売の取り組みをプレゼンした。

開会あいさつでは、同運営事務局副理事長の近藤隆平氏と、あいおいモーター営業開発部部長の水越靖氏が参加者を激励。近藤氏は「日本中のSSを元気にするという理念のもと、他社の取り組みや考え方を学べる場」と趣旨説明、水越氏は「自動車関連ビジネスの環境変化が進行し、質の高いサービスで顧客の信頼を得るのがカギ。決勝大会をビジネスのヒントにしてほしい」と述べた。

決勝大会に臨んだ4組（プレゼン順）は、パイオニア石油天山店、七洋カーパレットセルフ旭ヶ丘店、村田石油セルフコンコース楢原店、シブヤエネックススタシオン城山店。各組とも白熱のプレゼンを展開し、来場者による投票の結果、シブヤエネックススタシオン城山店が最優秀に輝いた。同決勝大会で常連組の同社だが、最優秀は今回が初めて。明確なビジョンと戦略的な顧客囲い込み、スタッフ教育を重視する姿勢などが評価を集め、納得の最優秀獲得となった。

決勝4組によるプレゼンで共通項目といえたのが、顧客第一主義と、それを実現するための人材育成という考え方。「お客から信頼されるSSづくり」や「お客を驚かせる&喜ばれる」といったキーワードが多く聞かれ、顧客との信頼関係強化をベースに、車検やオイル交換に励む成果事例が目立った。

結果発表・表彰式の前には、特別講演としてトレジャーエージェンシー代表取締役の白石健吾氏による「助成金セミナー」を実施。また会場内に協賛企業が商品提案ブースを設けるなど、来場者がSS運営に役立つ多くのヒントを得られた決勝大会となった。

次回GS甲子園のスケジュールは、7月下旬からエントリー店の1次予選がスタート、決勝大会は来年2月に予定する。

最優秀表彰

全員で記念撮影

車検時に〝売る安心〟
LLCクリーナーをPR
エンパ自フェアでエムケー

エンパイヤ自動車は「変化する未来と共に」をテーマに展示・商談会を開催したが、ブース出展したエムケー精工はエアコンガスクリーニング機「エアコンフレッシャーAF-4200Z」、オイル交換機「CVT&ATオートチェンジャーTF-3000S」、LLCクリーナー「LC-4000Z」の訴求に努めた。

エアコンフレッシャーAF-4200Zは従来車に加え、EV（電気自動車）やHV（ハイブリッド車）などの次世代車にも対応する1台2役のフロンガスクリーニング機。管路・ホース内洗浄機能により、PAG（従来車用）とPOE（EV・HV用）のコンタミを防止。さらに分かりやすい操作パネルと音声ガイダンスで、簡単で安心作業が可能。

CVT&ATオートチェンジャーTF-3000Sは、近年増加するゲージレス車にも全自動交換が可能なCVT&ATフルードチェンジャー。1回のリフトアップで、簡単に下抜き交換ができる。さらにフルード診断機能搭載により、長距離走行車の交換サービス拡大や、診断機能による誘引で販促力アップが期待できる。

会場でSS業者が最も関心を示したのが、クーラント廃液ゼロに貢献するクーラントクリーニング専用機LLCクリーナー「LC-4000Z」。

最近はSS向け出荷が急速に増えており、同社は「一押し製品」と強調する。

LLC交換はクーラント液の長寿命化で、SSのピットサービスでも影を潜めた印象が強い。車検時メニューでも、受注は困難な状況だ。しかし「長寿命化とはいえ液の経年劣化は起こり、エンジンに適切な温度環境阻害や管路内の腐食は懸念される。

LLCクリーナーは、従来の液交換をクリーニングに発想転換した新ビジネスモデル」（同社）だ。

機器の操作は簡単。装置から伸びる循環ホース先端のアタッチメントをラジエーターにセットして、専用ケミカルを装置に投入してスタートする。

そのあとはクーラント液の吸引／注入を繰り返しながら、サビの原因となる金属イオンをケミカルで凝集させて特殊フィルターで除去。廃液がほとんど出ず、廃液処理コストも大幅減だ。

さらにHVではエンジン用だけでなく、電源ユニット用冷却装置が別途搭載されているため、SSにはプラス収益源になる。

ドライバー側の判断も、車齢が延びるなかで整備機会は減少し「車検時に安心を買う」ことに、さほど抵抗感がないと思える。

エムケーブース

損保J日本興亜
インスタグラムでキャンペ
好評受けて第2弾実施

損害保険ジャパン日本興亜は、公式インスタグラムアカウントにおいて「#ジャパンダワールドクイズ」プレゼントキャンペーンを4日開始した。4月15日まで実施する。

同社は昨年9月、国内利用者数が2000万人を超えるインスタグラムの公式アカウントを開設。同時期に実施した開設記念プレゼントキャンペーンでは、5000件を超える応募があり好評だった。第2弾キャンペーンの実施により、ソーシャルメディアやスマートフォンを積極的に利用するユーザー層に対し、企業アピールを一層強化する。

第2弾キャンペーンでは、新・海外旅行保険「off!（オフ）」をテーマに、旅行にちなんだ二つの応募方法でプレゼントを用意。

「投稿して応募」では、公式アカウントをフォローし、旅行先で撮影した写真・動画に「#ジャパンダワールドクイズ」のハッシュタグをつけて投稿すると、ハンドヘルドカメラや電子書籍リーダーなど旅行グッズが合計23人に当たる。

また「クイズに答えて応募」ではキャンペーン期間中に公式アカウントで配信する「旅行」に関するクイズに答えると、スーツケースベルトやパスポートケースなど「ジャパンダオリジナルグッズ」が合計40人に当たる。

3クラス31社に盾贈る
12日に全国SS感謝式
TOYO TIRE

TOYO TIREは12日、ホテルニューオータニ東京（東京都千代田区紀尾井町）で「2018年度全国優績SS会感謝式」を開催する。

通年（1～12月）でトーヨータイヤのセルインを競うSS販路向け最大イベントで、当初目標を達成した3クラス（ダイヤモンド、エメラルド、サファイア）31社および連続して目標を達成した14社に光畑達雄執行役員販売統括部門管掌から感謝盾を贈る。

盾贈呈に続き、山邊憲一販売統括部門国内営業本部長兼トーヨータイヤジャパン社長が「2019年度SS向け新販売施策」の説明を行う。

記念講演は、元TBSアナウンサーで、現在はスポーツ評論家などの肩書で活躍する石川顕氏による「一流の人々から学んだもの／真のリーダーシップとは」。

同式典には光畑・山邊両氏に加えて、トーヨータイヤジャパンから、須藤真樹取締役執行役員営業本部長、奥村吉明取締役執行役員営業本部支社統括部長兼消費財販売統括部長、田代淳北日本支社長、東山和矢関東支社長、大森繁洋取締役執行役員中日本支社長、茨木隆晴関西支社長、渡壁一信西日本支社長などが、出席を予定している。

3月は奈良県がテーマ
ニコレンFC月替わりキャンペ
レンタス

ニコニコレンタカー（本部＝レンタス）は、月替わりキャンペーン「ご当地とっておき!!グルメプレゼント」の「奈良編」を3月に展開中だ。

今回で第38弾となる長期継続企画で、賞品に奈良県のご当地グルメをセレクト。「グルメ賞」の内容と当選人数は①柿の葉すし詰合せ＝5人②大和牛サーロインステーキ＝5人③奈良漬樽詰＝5人④天理スタミナラーメン＝5人⑤葛もちセット＝5人。また「ニコニコ文具賞」として、FC（フランチャイズ）キャラクター「ニコちゃん」の文具セットを200人に贈る。

3月1日から31日までのキャンペーン期間中に、ウェブ予約でニコニコレンタカーを利用し、期間内に返却したニコレン会員が抽選対象。複数回利用することで当選チャンスが広がる。

FC展開10周年を迎えてニコレンは今後、一層のCS（顧客満足度）と収益力の向上に向けた施策を進めていく方針。レンタカー利用において常にニコレン店を選ぶ動機づけとして、販促活動の強化も一層注目される。

GRIT!

FAXを送るだけ
顧客管理やDM発行支援

全国に6000SSを顧客とするSS業界専門販促デザイン会社のGRIT!（本社愛知県名古屋市・吉田俊明社長）は、人手不足から発生する顧客管理面の悩みを側面から解消するツール「さおりちゃん」を提案拡大中だ。

エクセルや管理簿、簡便なシステムを利用し顧客管理を行うSSは増えているが、顧客数が増えるにつれフォローが困難になり、蓄積したデータを活用できていないSSが多い。顧客情報を生かせないまま、クルマの買い替えや転居などの理由で、データ価値がなくなった例も少なくない。

また人手不足のSSでは、データの抽出やDM発行は「大切なことはわかっていても、なかなか手をだしづらい業務」の最たるものと言える。

同社の「さおりちゃん」は、顧客管理とDM発行を専属的に行ってくれる「気が利くアルバイトスタッフ」というイメージでネーミングされた新商品だ。難しい作業は一切なく、車検やコーティング、オイル交換などの作業受注時に、顧客から専用用紙に氏名・住所など記入してもらい、FAXで専用ダイヤルに送るだけという簡便さ。パソコンや専用機器での作業がなく、入社直後のスタッフでも対応可能だ。

送られたFAXを基に同社専属サポートスタッフがシステム入力を行い、あらかじめ取り決めたサイクル内でDMを発行する。DMを定期的に送ることで再来店率が高まり、余分なコストをかけることなく油外増収につながるメリットに加え、同社の提供するサービスには、はがきのデザインや印刷手配まで含むため「SS店長が販促作業に割かれる時間」も大幅に削減できる。

「さおりちゃん」を採用したSSでは「本来の業務に専念できる」といった声が多く、現場からも非常に好評だ。同社はここまで行き届いたシステムに成長させるまでに過去3年の時間をかけており、すでに全国300SSで稼働中だ。ツールの継続利用を希望しなかったケースは過去にわずか2件のみという。

とくに車検の増収で効果を発揮しており、導入前20台程度の受注だったSSが、車検センターを建てるまでに実績伸長したケースもある。費用は毎月の管理費が3万円、DM発行費が1通につき240円という明快さだ。

吉田社長は「実際に人を雇って教育や管理を行うといった、雑多な手間ひまの時間を考えると、非常に割安という評価をもらっている」と話す。

「さおりちゃん」に依頼したデータは、外部のネットワークからいつでも閲覧可能で、顧客管理システムを導入していないSSでも、顧客情報のデジタル化へ速やかに戦略転換ができる。

ツール「さおりちゃん」のロゴ

ジュネーブモーターショー出展
横浜ゴム

横浜ゴムは、7～17日にスイス・ジュネーブで開催される「第89回ジュネーブモーターショー」に出展する。

2018年からスタートした3カ年中期経営計画「グランドデザイン2020（GD2020）」の「タイヤ消費財戦略」を訴求し、新商品を展示する。

展示ブースでは「タイヤ消費財戦略」のテーマ「プレミアムタイヤ市場での存在感のさらなる向上」を推進するために、具体的な活動に掲げた「プレミアムカー戦略／ウィンタータイヤ戦略／ホビータイヤ戦略」にもとづく展示を行う。

同社がワンメイクサプライヤーを務めるFIAワールドツーリングカーカップ（WTCR）を紹介するコーナー、パートナーシップ契約を結ぶチェルシーFCの特別コーナーも設置する。